



本心

創立二十周年記念誌



大阪府立泉鳥取高等学校

花の本

大阪府立泉鳥取高等学校





泉鳥取の
四季



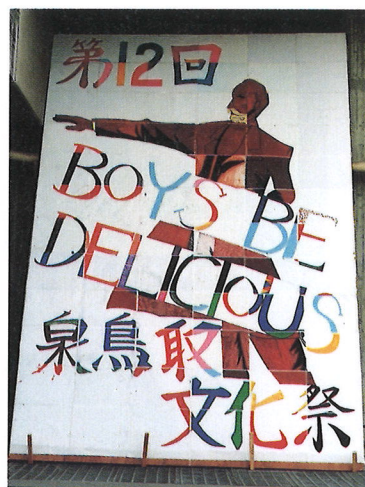
SPRING



SUMMER



泉鳥取の
四季

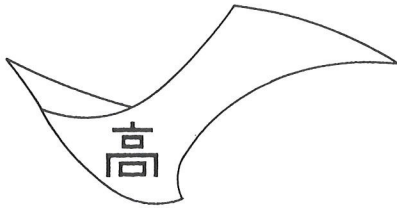


AUTUMN



WINTER





校章の由来

この校章は、「いずみとっとり」の頭文字である「い」を、飛翔する鳥に具象化したもので、勇躍する逞しさを表現している。イメージ原画は鷗を基本にしている。



大阪府立泉鳥取高校校歌

自然の丘に緑萌え
朝日に輝る茅渚の海
希望にあふる学舎は
あ、我らの泉鳥取

田面に渉る風清く
理想に集う我が健児
大空高く翔け征かん
あ、我らの泉鳥取

夕づつ溪谷に影淡く
誠に生さる友がらが
炬火をか、げていざ謳う
あ、我らの泉鳥取

— CONTENTS —

口 絵	
航空写真	
泉鳥取の四季	
校章・校歌	
挨 拶	10
祝 辞	12
沿革概要	19
回想で綴る20年	21
旧 職 員	22
卒 業 生	40
青春謳歌 ―クラブ活動―	51
汗と涙が輝いたこの瞬間	58
泉鳥教育20年 ―校務分掌の取り組み―	61
生活指導部	62
進路指導部	63
保健部	66
教務部・商業科	68
図書部	70
同和教育推進委員会	71
総務部・PTA	72
SCHOOL LIFE ―生徒自治会活動と行事―	77
泉鳥取歴史散歩	89
資 料	93
旧職員異動表	94
現教職員一覧表	99
編集後記	100





創立20周年によせて

学校長

有吉 隆生

快晴の朝、校舎の窓から西の方をのぞくと、昨年9月に開港したばかりの関西国際空港に次々と飛来してくる航空機が目に入ります。さらに視線をはるかにやれば淡路の山々を臨むこともできます。

ここ、大阪府立泉鳥取高等学校は後ろに緑の林を、前には青い空と海が広がる泉南の鳥取台地・自然の丘に位置しており、生徒諸君はこの恵まれた環境の中でのびのびと学習やスポーツに青春を燃焼させています。

ところで、平成7年度は本校にとって創立20周年にあたり、誠に意義深く喜ばしい年であります。本校がこの地に産声をあげたのは、昭和51年ですが、7,676名の卒業生は地元を中心として、社会の各分野において活躍しております。初代校長の石川正敏先生や2代目の八木幸治先生の頃は、いわゆる産みの苦しみの時代であり、当時の教職員や生徒、保護者の皆様は大変なご苦勞をされたと伺っております。いま創立10周年の記念誌をひもといてみますと、先生・生徒が丸丸となって運動場の整地に汗を流している写真が掲載されていますが、私達がこうして、のびのびと教育活動に携わることができるのは、先輩達のお蔭であることに改めて感謝しなければならないと思います。

さて、ご承知の通りここ数年、社会の変化も殊の外著しく、これに伴い学校教育そのものも従来の画一的な平等主義から基礎・基本の習得のうえに、個性の尊重や社会の変化に対応できる能力の育成が求められるようになってきました。また、

国際化・情報化・高齢化の時代といわれて久しくなりますが、とくに泉南の地は関西国際空港の開港により、日本はもとより世界中から国際化の最も進んだ地域として注目を集めております。従いまして本校の教育も新しい時代にふさわしい内容が求められており、我々教職員も常に教育内容や方法の改善にこれ努め、生徒一人ひとりの能力を十分引き出して、新しい時代に対応できる人間の育成に精一杯の努力をしなければならないことは言うまでもありません。21世紀はもうすぐそこにきております。20周年を新しい出発点とし、「自主研精」の校訓のもと、教職員一人ひとりがさらに知恵を出し合って、地域に根ざした高校として地元の皆様に一層期待される学校になるよう、本校教育の改善を進めていく所存でありますので、さらなるご支援ご助力をお願い致します。

なお、20周年をひかえ平成6年度には記念事業実行委員会が学校・PTA・同窓会・泉祥会によって結成され、記念式典と祝賀会、記念事業や記念誌の編纂等の準備をすすめ本日を迎えることができたことは、誠に喜ばしい限りであります。これひとえに委員の皆様をはじめ、多くの教職員が本校関係者のご協力の賜物であります。とくに本記念誌の編纂は多大の時間と労力を要するものであり、任にあたった教職員と原稿をお寄せ頂いた歴代校長先生をはじめとする旧職員や関係者の皆様のご苦勞にあらためて感謝を申し上げたいと存じます。



創立20周年記念式典

教 頭
亀井 慎作

大阪府立泉鳥取高等学校に係わる全ての皆様、創立20周年を迎えるにあたり、衷心よりお祝い申し上げます。宇宙をはじめ万物にはそれぞれの長い歴史が認められます。それに比べて人間の歴史はなんと短いことでしょうか！人々は短い一生の中でそれぞれ英知を結集して歴史を積み重ねてまいりました。泉鳥取高校の歴史を振り返りみますと地域社会の皆様の協力をはじめ設置者、教職員、生徒、PTA、卒業生等々の血と汗の結晶で創立20周年を迎えることができたのでしょう。心より先人の皆様に敬意を表わす次第です。私は奇しくも創立20周年を挙げる平成7年に本校の教頭を拝命致しました。20周年記念式典を成功裡に収めるために関係先輩方の尽力を借りながら精一杯努力する所存です。

10周年記念式典時の教頭先生が反甫先生とお聞きしまして感慨深い思いが胸中を過っています。以前より現在に至るまで人生の多岐に渡りご指導ご鞭撻いただいてまいりました先生であったからです。人との出会いの大切さが改めて胸深く浸みてまいっております。創立10周年記念式典時のビ

デオテープを拝見していますと、式典2部での生徒諸君の大奮闘が強く心に焼き付いてきます。と同時にこれまで指導されてまいりました諸先生方の情愛と心意気に圧倒されてしまい言葉を失っています。本年の20周年記念式典はオーソドックスなパターンではありますが、前年度に組織されました実行委員会でも十分検討された結果、2部の内容としましては多くの人々から共感されているシンガーのステージを実施する方向となり関係各方面の方々の賛同を得ました。何事においても関係する人達が互いに共通認識のもとに協同していくプロセスが最も大切な人間関係を構築してゆくものと信じております。微力な私ではございますが目的達成を目指して懸命に取り組む所存でございます。また本校の20周年記念式典は人生においては成人式とも考えられるでしょう。この重要な節目を教職員一同が再確認し本校の歴史と伝統を大切にしながら21世紀を生き生きとたくましく人生を謳歌できる生徒の基礎基本の育成に情熱を燃焼させてまいります。泉鳥取高等学校20周年、誠にお目出度うございます。



祝 辞

第2代校長

八木 幸治

大阪府立泉鳥取高等学校創立20周年記念式典を
 挙行されるに当り、心からお喜び申し上げます。
 本校は、昭和51年4月第104番目の大阪府立高等
 学校普通科として創立され、以来今日に至るまで
 順調な発展を遂げて来られたのであります。その
 間、本校の発展に尽くされました全職員の各位を
 はじめ、PTA、同窓会の皆様方のご苦勞に対し
 まして、衷心より敬意を表するものであります。

私は昭和54年4月1日、第2代校長としてその
 重責を果たすべく着任し、昭和56年3月31日まで勤
 務させていただきました。在職中は何ら為すこと
 なく、あっという間の2年間でありました。吉岡
 教頭先生をはじめ全職員の皆様方に支えられ、ま
 たPTAの皆様方の並々ならぬご協力によりまし
 て、その重責を果たすことができました。

当時、減学級運動が行われ、この間府教委への
 陳情や、校内での長時間にわたる会議など、全く
 あわただしい毎日でありました。

昨年9月4日、関西国際空港が開港されました。
 これからの当地はあらゆる面で予想をはるかに越

えて変革、発展して行くことと思います。このよ
 うな時代を生きて行く青年にとってどんな力を育
 てて行く必要があるのか。課題は沢山あり
 ます。私事で恐縮ですが、私は定年退職後10年間、
 予備校で数学科主任や校長をやって参りました。
 高等学校在学中に修得した基礎学力が如何に大切
 であるか痛感しています。そして、何よりも生徒
 諸君の一人ひとりが、自分で考え、自分で判断し、
 行動して行く力が望まれてまいります。

本校は、幸にして清々たる空気、そして風光明媚な
 立地条件、意欲ある若々しい教職員にめぐま
 れています。前途有為な青年を育成するには絶好
 の学舎であります。

この20年間に卒業生7,676名を世に送り出し、
 各方面で立派に活躍しておられる由承り、真に頼
 もしい限りで、なお一層の発展を願うものであり
 ます。

終わりに、皆様方のご健勝とご繁栄を祈念し、
 ご挨拶とさせていただきます。



大空高く翔け征かん

第3代校長（初代教頭）

吉岡 光雄

大阪府立泉鳥取高等学校創立20周年を心からお祝い申し上げます。学校は昭和51年1月1日開設。4月1日開校。1期生450人が入学して、府立泉鳥取高等学校として呱呱の声を挙げ、生成発展への第一歩を力強く踏み出しました。以来8年3ヶ月、伸びゆく泉鳥取高校と共に生きて参りました私にとって、20周年を迎えられたことはこの上ない慶びであり、万感胸に充つるものがございます。往事范范20年。泉鳥取も遠い昔となりました。しかし、新しい学校創りに胸を焦がした熱い血潮は今なお脉の底に流れているのが感じられます。泉鳥取を去って12年。阪和線で和歌山、紀西への往復の車中、和泉鳥取が近づくにつれて胸がときめき、窓辺に瞳を凝らしている自分の姿に気付きます。そして、泉鳥取高校に対する思いの深さを再確認する次第です。

泉鳥取を思い出させる物に、50ccのバイクがあります。通勤時間短縮の為に、昭和52年春に購入したもので、毎朝、初代石川校長先生と共に駅から学校までラッタッタと飛ばしたのも懐かしい思い出です。今もそのバイクは健在で、史跡巡りに図書館行きに大いに貢献してくれています。

当時の教職員の皆様、本当によく頑張って下さいました。新しい学校創りに燃える先生方の情熱と努力には今も頭の下がる思いがします。「非行」と「低学力」の克服を標榜して、その実現に創意工夫をこらし、連日連夜8時9時迄、時には阪和

線の終電時近く迄討議を重ねたものです。そのため地元の方から、泉鳥取には定時制もあるのかと尋ねられたことも一度ならずありました。その成果は特に同和教育に、生徒指導に、進路指導に見るべきものが多大でありました。

生涯を教員として生きてきた私にとって「教育」とは「人間がより良く生きて行くための力を身に付けることを援助する営みである」と思っています。換言すれば人間を尊重することが教育活動であると申せましょう。人間尊重こそ教育の出発点であり、同時に永遠のゴールではないでしょうか。そして人間尊重こそ国家社会の根本理念であり、その具現が人間社会のあらゆる営みの目的、目標でなければならないと確信しています。そして泉鳥取高校は人間尊重教育に努力邁進して来られました。そして今後もそれに更に努力精進なさるものとご期待申し上げます。

それにつけましても泉鳥取高校の今日あるのはPTAはじめ地域社会の学校開設以前からのご協力ご支援の賜であります。旧職員の一人として改めてお礼申し上げますと共に今後一層のご好誼、ご支援をお願いいたします。

創立10周年記念誌「ハナミズキ」に寄せた「若く、逞しき火の鳥泉鳥取高よ、翔け征け、大空高く何処までも！」を今一度泉鳥取に捧げて、措辞乍ら20周年の祝辞とさせていただきます。



想い出

第5代校長
南 敬

栄えある創立20周年を迎えられ記念式典を挙行される、泉鳥取高等学校の関係者の皆様に心からのお祝いを申し上げますとともに、記念誌の刊行に敬意を表します。

一口に20年と言いますが並み並みならぬ年月であったことは、私もそのうち4年間籍をおいただけに良くわかります。この20年、困難を一つ一つ克服しつつ、生徒一人一人深く理解しよう、その可能性を見出し引き伸ばそう、その個性と能力に見合う進路に進ませようと全勢力を傾倒した数多くの教職員の汗と努力がこの年月を育んできたと思います。またバックアップしてくださった大阪府教委、地域社会の方々、PTAの皆様のご助力があってこの祝典にたどりつけたのだと思います。

さて、私は昭和62年から4年間この学校に在籍しましたが、泉南地区は私の故郷ですし学校周辺の豊かな自然とあいまって、環境的には随分暖かく有難い月日であったと思います。

泉鳥取高等学校は府下でも指折りの講師の教員の需要の多い学校です。講師を捜すのは学校長にまかされていますが、大阪の僻地で交通費の関係もあって着任してくださる講師がなくなることもしばしばでありました。しかし生徒のために授業に穴を空ける訳にはいかないので、ありとあらゆる伝手を辿って走り回り、公立私立の大学の教育学部をお願いをしたり、あげくの果ては公文式の方を頼ったりしたこともありました。同じ悩みの岬高等学校の当時の校長と共同歩調もとりました。

とにかく4年間のほとんどを講師時数の諸問題と講師確保に明け暮れ、無我夢中の年月でした。

私の在任中に誇りに思っていたことの第一は修学旅行の事です。行儀の悪い学校を断ることで有名な志賀高原の熊の湯ホテルが毎年引き受けてくださったことです。他の学校から随分羨ましがられました。その第二は、鳥取県東浜海岸でずっと実施した1年生全員参加の臨海訓練と多数の生徒がクリアーした遠泳でした。やりたくてもやれない学校が多い中で泉鳥取高等学校はそれができる生徒と教員を持っていたのです。大変嬉しかったのは昭和63年8月2日陸上競技部の川植君が高校総体で優勝したことです。

施設の面での想い出は何度も何度も府教委に足を運んだすえ予算を付けてもらい、英語科のL L教室とコンピュータ指導のLANシステム導入への目途が立ったことも画期的なことでした。などなど想い出はきりがありません。

小過はたくさんあったと思いますが、まあ大過なく5代目校長の職責を全うできたのは全職員の方々やPTAの皆様のご協力のお陰です。紙面をお借りして深くお礼申し上げます。

終わりに、大変残念で私の一生の記憶に残る強烈な想い出があります。それは平成2年12月12日中村 直先生がまだまだ春秋に富む若さでなくなったことです。恐らく熱心な中村先生のことです、きっとこの祝典を喜んでみてくれていると信じます。



ハナミズキへの想い

第6代校長

森本 敏史

阪南の山懐に芽生えた双葉が20年の歳月を経て遅しく根を張り枝を上げ、いま大樹に育つ時を迎えて心からお慶び申し上げます。この若木を慈しみ育まれた多くの方々のご努力に深く想いを致すとともに、私もまたこの学校に係わった一人として、3年間の短い時期でしたが、いま一入の感慨がよぎっています。

ずっと以前の何と言うこともない光景の断片が何故か脳裏の底に焼き付いてしまっていて、時に触れて鮮明に記憶の表面に浮き出てくる、そんな消えることのない心象風景をどなたもが持ちではないかと思うのです。

平成3年の4月、本校に赴任してまだ日も浅い下旬のある日、前線の通過らしく朝早くから荒れ模様で、鉛色の雲が山裾を這うように走って風が騒ぎ沛然と雨が降りました。辺りは薄暗く、言いようのない陰鬱な思いで朝の連絡会に足を向けたのですが、この重苦しい気分は、本当は天候のせいではないことも自身よく分かっていました。

新学期のスタートまでには講師時数を詰めておくのは当然なのですが、最後まで理科でどうしても埋められないまま、ついに見切り発車になってしまっていたのです。無理を承知で、とにかく当座は教科で分担をお願いして、出来得の手立ては全て尽くしたのですが、ことごとく駄目でした。下旬ともなればそれも最早限界に近いことは分かっていたし、何としても一刻も早く講師の手当をしなればという焦燥に追いつめられて、脅迫概念のように重く心に覆い被さっていった、ちょ

うどそんな時期だったのです。

連絡会の終わる頃、天気が急変して、はたと雨が止み雲が慌ただしく逃げ去って、俄かに辺りが明るくなったと思う間もなく、眩しく陽光がさし始めました。そのとき職員室を出て渡り廊下にさしかかったのですが、突然、その場に立ちすくんでしまったのです。何と校庭のハナミズキが見事一斉に開花しているではありませんか。雨に濡れた花片は息を呑む程鮮やかで、雫が宝石のようにきらきら輝いて、暫くはただ呆然と見つめるばかりでした。ところが一瞬、我に返ってはっとしたのですが、あの重くのしかかっていた鬱積がいつしか幻のように蒸発してしまっているのです。きっと講師は見つかる…代って確信のような活力がもくもく湧いてきて、一気に眺望が開けたような爽やかな気持ちになっていました。あれは一体何だったのか、今もって判然とはしないのですが、そんな不思議な体験があって、以来とりわけハナミズキにこだわるようになったのです。

翌年、些か寂し気な開花に、心もち距離をとって接するだけのゆとりが持てました。3年目、ハナミズキと少しばかりの対話が交わせるようになって、あとさほど長くはない残りの年月をこの学校で終わりたいと心底思うようになったのも、またこの頃からでした。

あのハナミズキの残像はいつまでも消えることはなく、30周年を迎える時にはともに何を語りあえるのでしょうか。



バイタリティのある校風

PTA会長
竹内 裕

泉鳥取高校20周年おめでとうございます。

法治国家の日本で言えば、選挙権が与えられ、酒、タバコ等が公に認められる立派な成人です。

ここに無事20周年を迎えられるという事は、諸先生並びに諸先輩方がコツコツと積み上げられた実績の賜物と、深く感謝しますと共に、その年のPTA会長という大役を仰せつかったことも私自身、名誉なものと思っております。

私は泉鳥取高校がどこにも負けない名門校だと自負しております。それは何故かと申しますと、娘が3年間お世話になり又、私自身PTAを通じて泉鳥の皆様方との関わり合いができ、会合等その他度々学校を訪問する都度感じることは生徒の皆さんの度量のひろそうな、大らかさが肌に感じることです。その大らかさこそが何処の名門進学校にない大事なものです。勉強・勉強と単語を覚えるために辞書を食べる頭でっちな人間になるよりも何事にも大らかな人間の方が社会に出てから大きく伸びるものです。人の上に立つほどの人物は必ず人の度量を見抜きます。そして、社会のトップに認められめきめき頭角を現し、又、自ら事業を始めて成功するものなのです。何も東大に何人入ったか、どこそこの国立大に何人入ったか

が、名門校ではないのです。生徒の皆さん自身が泉鳥の校風に馴染んで、自由に思いやりのある、何事にも寛容で、それでいてバイタリティのある泉鳥の校風にどっぷり浸って下さい。

昨今何処の学校でも、個性を延ばすよりも頭でっちな点とり虫が急増しています。試験で良い成績をあげることは大切ですが、肝心かなめの人格涵養を忘れては、大学で通用しても社会では通用しません。プロ野球の野茂を見て下さい。大リーグに行っても立派に通用しているではないですか？勿論いくばくかの理由はあると思いますが、一番の理由は彼独特の投法では無いでしょうか？

最近は日本でもむずかしい激動期に入りつつあります。社会が安定しているときは官吏型が幅をきかせますが、激動期に力を発揮するのは、個性的で肝の太い人間と相場が決まっています。現実にはそういった観点から、新卒者を採用する企業がどんどんふえてきています。ですから生徒の皆様方には、これらのことをよくよく考え、知力とともに体力・気力の育成に邁進していただけますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



創立20周年を迎えて

前PTA会長

中西 正明

府立泉鳥取高校関係者の皆さん、創立20周年を迎えるに当りまして、心よりお祝いを申し上げます。

昭和51年に「自然の丘」に開校の槌音を響かせて以来20年になろうとしています。

本校の沿革をひもとけば、開校当初は先生をはじめ、生徒もPTAも大変ご苦労された様子が目に浮かんできます。

校舎も完全には出来ておらず、体育館も食堂も工事中と言う状態でした。グラウンドに至っては、石ころだらけ、穴ぼこだらけの状態で整備と使用が同時進行と言う有様でした。当然、庭木や草花と言う様な環境整備もまだまだでした。しかし校舎は丘の中ほどに建てられた為、大阪湾を一望する事が出来、淡路島から神戸までが見渡せる素晴らしい眺望が自慢です。現在では関西新空港が眼下に、それこそ手に取る様に眺める事が出来ます。

この様なご苦労の中で、関係者全員が手を取り合って、まさに手造りでこの泉鳥取高を立ち上げてされました。幸にも学校の周囲にはまだ恵まれた自然がたくさん残っております。

今は、学舎も教育設備も整い、校庭に植えられた樹木や草花も周りの自然にとけ込み、さながら昔からそこにあったが如くに植っております。

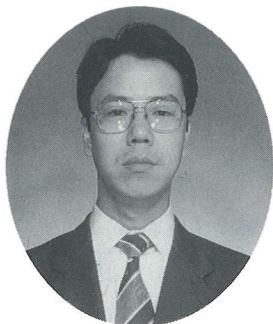
十年ひと昔と言うならば、当校はすでにふた昔の年月を刻んだ事になります。当校を今日まで造

りあげてこられた先輩の貴い努力の結晶が現在の泉鳥高の歴史と伝統として息吹いております。

第1期卒業生のOB達もすでに35才となられ社会では中堅の働きざかりとして活躍されております。この17年の間、第1期生を筆頭に卒業生の皆さん方の勤勉な、そしてまじめな働きぶりが、社会より大きく評価され現在に引き継がれております。この後に続く後輩の皆さん方も、この良き伝統を受け継ぎ、より磨きをかけ、又その後に続く後輩達に譲って行ってもらいたいと思います。

折しも今年は終戦後50年に当たります。この50年の間、私達の祖父母達が一心不乱に働き、この様な目覚しい驚異的な復興を遂げてきました。しかし余りにも急激すぎた為、政治的にも経済的にも色々な歪みが生じてきました。この歪みを除去すべく今、政治形態が変わろうとし、そして規制緩和がされようとしています。おそらく教育に関する規制も緩和されるでしょう。その速度は急激なのか、緩慢なのかは、分かりませんが、この様に社会が変革しようとしている時に奇しくも当校の20周年に合致しました。

これからの泉鳥取高校は、この大きな変革の波に呑み込まれない様、パーソナリティーの豊かなそして特色のある人材の育成に努められ、より一層の発展を希うものであります。



20周年に思う

同窓会会長
井上 純男

泉鳥取高校創立20周年に当たり、関係する全ての方々に心からお祝いを申し上げます。

早いもので私自身が在学していたことが、そんなに昔のことのように思わないのですが、自分自身の年令から考えても確かに20年が過ぎているようです。

私は昭和51年4月に1期生として449名の学生とともに大阪府立の104高等学校（仮名“阪南”高校とっていました。）に入学、正直なところ泉鳥取高校という名を聞いたのがいつだったかは憶えていません。

新しい学校が出来て、新しい制服を着て、新しい友達が出来て…などと思っていたのですが、現実には校舎は建設途中で校内は空地ばかりでした。制服は中学生の時のものを使い、ボタンが変わるだけ、しかもそのボタンが4月に間に合わなかったのか、5月か6月まで中学のボタンのままにしていました。友達に至っては当時の阪南町から通学する生徒が全体の3分の1を占めていたので、どこへ行っても顔見知りばかり。何だかわけのわからんところへ来たもんだと思ったことを今でも憶えています。

それから3年間の在学期間はいろいろなものが建設途中だったもので、卒業以来ずっといつかは完成するという気がしていました。

今年20周年という節目を迎えたわけですが、現実には、私の見た泉鳥取も、現在の泉鳥取も、この学校のもつ表情のうちの一つにすぎないように思いました。

今年で制服が全て変わりましたが、それ以外にも、例えば学生は毎年3分の1ずつ変わっていきますし、先生方もずいぶんと変わられました。

私達は在学していた時、よく“この学校は、君達学生が創って行くんだ”と言われましたが、その言葉はそのまま今でも生きているように思います。これは泉鳥取に限ったことではなく、学校というものの自体が、常に発展途上で、みんなが力を合わせて新しく創り上げていくものではないかと考えます。

10年前に10周年を祝ったときには、私自身20周年が来ることを考えていませんでしたが、今、20周年に当たり、私はこれからもずっと泉鳥取高校が存在し続けることを実感しています。

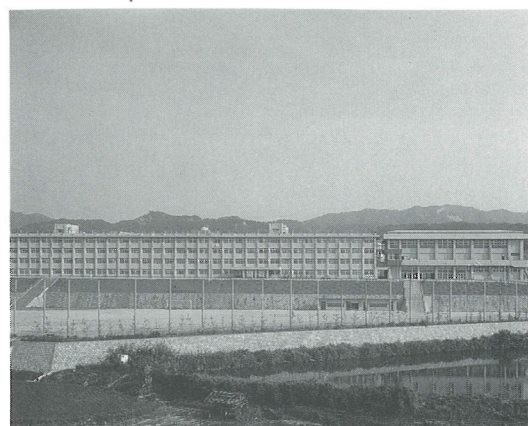
その中で全ての生徒、先生、又学校の事務員やその他の方々が力を合わせ、その時その時に応じた、新しい泉鳥取高校を創っていつくれることを信じています。

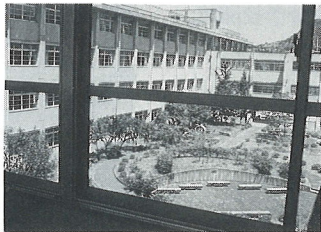
この学校に集う全ての人々が、泉鳥取の歳月の1ページたらんことを心から願っています。

沿革概要

泉鳥取高校の歩み

- 昭和50年 3月13日 大阪府定例府議会議会において、大阪府立第104高等学校の建設費予算が通る。
- 昭和50年 4月1日 大阪府教育委員会事務局高等学校等設立準備室において開校準備事務を開始。（準備室は大阪府立和泉高等学校内に設置）
- 昭和50年 6月5日 校舎第一期工事起工式。これをもって本校創立記念日とする。
- 昭和51年 1月1日 大阪府立泉鳥取高等学校として設置される。
- 昭和51年 2月28日 校舎第一期工事竣工。
- 昭和51年 4月1日 大阪府立泉鳥取高等学校開校。1期生450名入学。
- 昭和52年 2月28日 校舎第二期工事竣工。
- 昭和52年 5月31日 食堂棟竣工。
- 昭和52年 6月30日 プール竣工。
- 昭和52年 8月31日 体育館竣工。
- 昭和53年 2月28日 第三期工事竣工。
- 昭和60年 4月1日 パーソナルコンピューター25台を設置（FM-77）
- 昭和60年11月16日 創立10周年記念式典を挙る。
- 昭和63年 7月30日 図書室冷房機設置。
このころ、学校規模最大（48人学級36クラス）
- 平成 3年 3月31日 英語教室をLL教室化。
- 平成 3年 8月26日 情報処理室設置。LAN（ローカルエリアネットワーク）のパーソナルコンピューター50台設置。
- 平成 6年 3月31日 家庭科総合実習室竣工。
- 平成 7年10月21日 創立20周年記念式典を挙る。





回想で綴る20年

— 旧職員・卒業生 —

陸上競技部員との18年間

◆
由井 潔



創立20周年おめでとうございます。

1期生の入学式の行事として、生徒、教職員の手で植えた桜の苗木（裏の自転車通用門を入り左側の土手に大きく成長しています）が毎年春になると、美しく咲いて新入生を迎えるのを楽しみに18年間（教師生活の約半分）泉鳥で過ごさせていただきました。今、泉鳥を離れ、近くを通る毎に色々な想いが頭の中をグルグル回ります。あっという間の18年間でした。我ながら毎日毎日よく頑張ったなあと振り返っています。決して楽な18年間ではありませんでした。そんな中で私を支えてくれたのが陸上競技部でした。初代の校長先生が部活動はまだ早いと反対される中、十数名の1期生で陸上部の活動が始まりました。グラウンドの石拾いから始まり、雨の後は数カ月間グラウンドは使えず、裏の段々になった造成地（20年前は学校の周辺は家一軒ありませんでした）で走ったり、跳んだり、槍を投げたり、何と棒高跳びの練習（これで私も地面に落ちてケガをしました）。

1期生の初めての授業（女子の体育）で背の高

い生徒を見つけました。授業が終わって声をかけました。「石を拾って池に投げてみなさい」彼女は左手で力強く投げてくれました。創立2年目にして彼女は大阪で女子槍投げ2年の部において3位に入賞し、近畿大会に出場しました。この近畿大会には、同じく1期生のバスケット部から転部して来た女子部員も走り高跳に出場し4位に入賞しました。槍投げは広田さん（現・赤井）、走り高跳は池田さん（現・間多）2人共今は良き母親です。4期生の中田さん（現・竿下）は今でも大阪高校記録保持者（女子7種競技）です。彼女はどんなきつい練習でも音を上げずにこなしました。余りつらそうなので「大丈夫か」と声をかけると「ハイッ」と答えながら涙を流していた姿は忘れる事ができません。2年間近畿大会で活躍し続けた槍投げの5期生の安宮さん（現・藤田）、特に彼女が3年の時の近畿選手権で、住友電工の所属となった中田が1位、安宮が4位に入賞したのにはびっくりしました。大阪総体で審判員の頭の上をこえる投てきで、2位以下をはるかに離して優



勝した槍投げの川崎さん（8期生。今は立派な看護婦さん）。9期生には、何と1年の部槍投げで全国歴代1位の記録をつくった藤沢君がいました。彼が泉鳥で初めての全国インターハイ出場者になりました。泉鳥で初めてトラック種目で近畿大会に出場した10期生の岩田君、近畿大会で準優勝（110mハードル）まで進んだのは立派でした。そしていよいよ泉鳥の名が全国に知れたのが11期生の川植君の快挙でした。1年の時には円盤投げで近畿総体1年の部優勝、同槍投げ2位。しかし冬期練習前に腰痛に苦しみ、2年時は近畿インターハイ8位に終わりました。2年の冬は、玉田山での走り込み、精神的に強さが増し、全国インターハイに向けて着々と力がついて行きました。円盤投げの全国インターハイ優勝ラインは毎年だいたい52～53mです。彼は全国大会の4日前に学校のグラウンドで53mを記録しました。全国インターハイ当日は、過去最高の調子になり、見事決勝の1投目で全国一を決めてしまいました。25名の部員

の熱い声援の中での見事な投てきでした。彼は多くの有名大学の誘いを断わり、地道に力強く歩み始めました。決して全国一になった事で他人を見下したり、天狗になったりせず、いつも後輩思いのやさしい先輩であり、今は良き父親です。泉鳥らしいと思います。17期生の八藤は2人目のトラック種目（400mハードル）での近畿大会出場者になりました。

19年間、陸上部員と生活を共にし、色々な事を学びました。手助けしてやれず学校を中退して行った生徒も多数いました。体を悪くし、練習している仲間に声をかけながら毎日整地をしつづけてくれた部員もいました。父の日に、手づくりの花を車に飾ってくれた部員もいました。くびにした部員が、校舎のかげからそっとグラウンドを見つづけていた、という話を後で聞きました。みんなありがとう、泉鳥の陸上部を大切にしてくれてありがとう。今後の陸上競技部のますますの発展を期待しOBと共に見守って行きたいと思います。

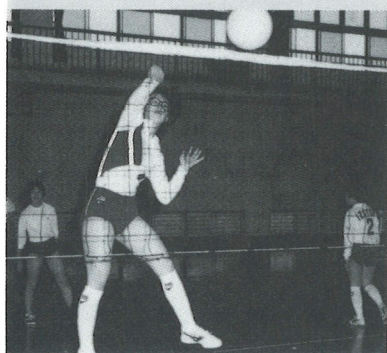
プロフィール



昭和51年創立時から本校保健体育科教諭として勤務。愛知県知多市出身。藤井寺工業高校から新設の本校に赴任。陸上競技部を育て上げた。昭和60年～平成3年生活指導部渉外（現在の代表）。非常に熱心に生徒の指導にあたり、厳しい反面、心暖かい先生であった。「先生、いつも集会で訴えとるやろ。何でわからんのや！」が口癖。平成6年度、府立伯太高等学校に転勤、現在にいたる。

バレーボールと共に17年

◆
安西 仁



「生徒の本分である勉強も出来んと何が近畿大会じゃ、出場は辞退する！」ついに皆の前で言ってしまった。高体連へ辞退の電話をしているとき、必死に受話器を私の手から取ったキャプテンの顔が今でもはっきり脳裏に焼きついている。終業式に部員が舞台に上がり激励を受けるはずであったが、私からの辞退の報告になってしまった。

出場が決まった時から大阪府の代表として恥ずかしいチームで大会に望もうと決意させ、練習にも熱が入っていました。大会は7月末です。それまでに期末考査があり毎回のことであるがテスト前には勉強会をし、各自の目標を話し合いで決め、目標達成のために勉強会にも熱が入りその効果は上がっていたのです。当然今回も目標を設定していたわけですが結果はレギュラーのほとんどの者が目標をクリア出来なかったのです。今までに無かった結果に驚き、残念さとバレーにうつつをぬかして本来のことをおろそかにしていた

部員に対して腹立ちを感じ、このまま出場しても意味が無いと思い辞退に踏み切ったのです。

あの時の無念さは言葉では言い表せることはできません。その時の3年生には申し訳なかったが、その後3年生を中心にして「来年こそは胸を張って大阪代表として恥ずかしくないチームで出場しよう」をスローガンに技と心を磨きチャレンジしていき、そしてあくる年大阪府でベスト4になり、立派に成長し堂々と出場を果たしたのです。

私の泉鳥取高校の歴史の中で一番印象に残っている出来事である。生徒が自分の卒業した学校を誇りに思えるようなそんな学校にしたい。新設泉鳥取高校に赴任した時の私の願いだった。将来自分が親となった時、息子や娘に熱い思いで高校時代の青春を語れる父親、母親になってほしい。学校生活の中でより積極的に打ち込めるものの中にクラブ活動がある。バレーボールに興味を持ったものが集まり、同じ目的、目標に向かって努力し、



心身の練磨をしていく中で、とことん打ち込んで苦しんだからこそ得た感動を体験させたかった。その為に生徒には厳しい指導の連続でした。叱られながら、泣きながら耐えてやった練習の成果は、スポーツであるかぎり勝利である。勝てば今までの苦労が吹っ飛んでしまい、それが糧になりより高い目標へと向かわせる。そう信じていた私はとことん生徒を追い込んだ。中には自分に負けてしまい退部を申し出る生徒もいたが、その時は練習を休んで全員でその生徒と話し合いをさせ部員が納得するまで退部させなかった。一人ひとりはいけれど皆が同じ気持ちになれば（相手の気持ちになってやれば）自分達の想像以上の力が出るのだ。彼女達が感じた時ももうバレーから離れられなくなっていた。自分達の結果が新聞に載りそれを読んだ本校生にも「泉鳥のバレー部やるやんか」

と思わせ、地域の中学校も泉鳥に注目をするようになった。そんな中で部員には「バレーだけやったらあかんで。バレー以外の所でも自分を磨かんと」、「この体験を生かさんと意味ないで」と言い続けた。「泉鳥取高校を良くするのは自分達からだ」生活面・勉強面でも気を抜くことなく厳しく要求を突きつけた。それに答えて部員達は本当に良く頑張ってくれたと思っている。彼女達が目標に向かって精進しているときの姿は実にいきいきとしていたし、何よりその時の素顔が本当に素晴らしく、美しく感じられた。

彼女達が、泉鳥の卒業生として誇りに思い、自分の青春に打ち込んで得た貴重な体験をきっと何処かで役立ててくれているものと思います。青春している実感を身体いっぱいにした彼女達と共に過ごせた私は本当に幸せものだと思っています。

プロフィール



昭和51年創立時から本校保健体育科教諭として勤務。大阪府出身。専門はバレーボールで、本校女子バレーボール部を大阪府屈指のクラブに育て上げた。由井潔先生の前任の生指渉外で、本校生活指導の基礎を作った。「そうやっていつまでも遊んでたらええねん、アホンダラァ」が口癖。いつもダンディで別名「ゴルゴ」、最近「ゴルフ」に凝っている。平成5年度、府立佐野養護学校に転勤、現在にいたる。

泉鳥取高校の思い出

◆
中筋 久彌



創立20周年、誠におめでとうございます。時の経つのは、ふり返ってみると本当に早いものです。泉鳥取に16年間お世話になりました。和泉高校から転勤を希望したのは34歳の時でした。今から思えば若かったのでしょうか。何でもできましたね。又、何も知らなかったから怖いもの知らずだったのでしょうか。管理職を含めて24名で出発しましたが、いろいろ苦しいこともあったのでしょうか、のどもと過ぎれば何とやらで、今では楽しいことばかり思い出されてきます。

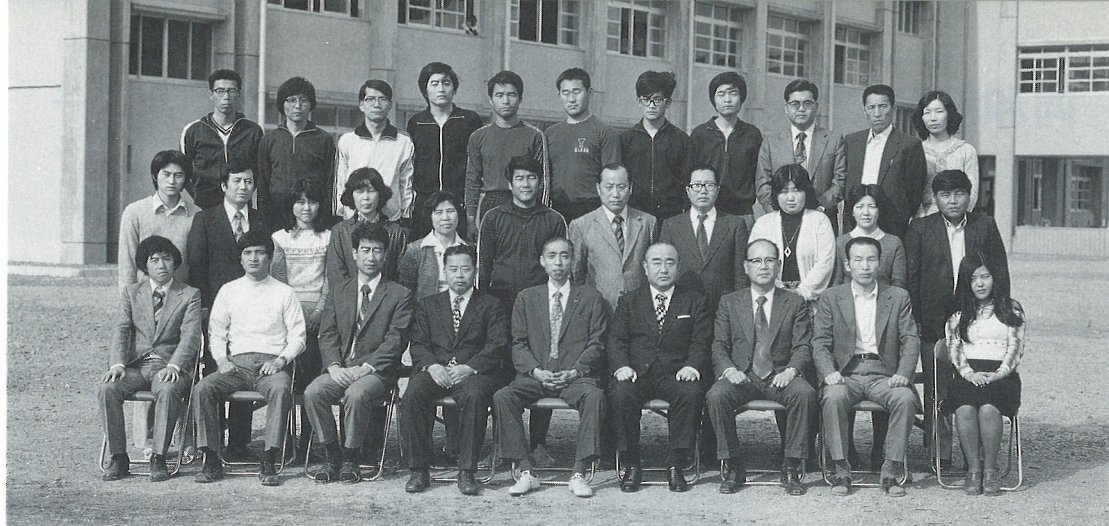
体育館もない、グラウンドもない、職員室もない、校舎も不充分、中庭は泥んこで、そこで450名の新入生の入学式をやらねばならない。二手に分かれて、一方が中庭の水を取り除き、もう一方は、入学説明会の資料作りにと、ほんとに大忙しでしたが、でも楽しかったです。今から、第一歩が始まるのだと思えば…。

学校行事をするにしても先生の人数が少ないために、一人で何役もこなさなければならないことも多々ありました。岸本先生の切り開いた登山ルート、あれは厳しかったですね。でも、キャンプは

とても有意義だったと思いましたが、長続きしませんでしたね。当時は、どうして止めてしまうのか理解できませんでしたが、今であれば、自分なりに理解できるように思います。

人にはそれぞれ、能力のちがひがあるのです。体力的に自信のある人は、それらの行事には進んで参加できるでしょうが、そうでない人はやりたくてもできないと思います。そして、発言したくても結局はできないのではないのでしょうか。しかし、それが全てではないのですから、別の所で力を発揮すればいいのではないのでしょうか。多くの先生方がおられるのだから、互いに分業をしていけば、全体として、とても立派なことになると思います。しかし残念なことに、自分がやらない、やれないから、みんな止めてしまおうとして、足を引っ張っている者がいるのも現実でしょう。

自分の教員生活の大半を過ごした泉鳥取高校について、おおいに気になりますが、いつまでも過去にとらわれていても前に進めません。泉鳥取のことは、現在の素晴らしい先生方が教育していつてくれるものと信じております。



創立当時の教職員（最上段左端が著者）

私は泉鳥取で定年を迎える積りでやってきましたが、情勢が変わり、自分の考えている通りにはなれず、心ならずも泉鳥取を去りましたが、現在は貝塚高校の定時制に転勤を命ぜられ、早いものでもう3年の月日が経ちました。泉鳥取高校での経験から、どんな学校に行っても通用するものと思っていたのですが、定時制には何とっていいのか、うまい言葉が見つかりませんが、どこか異質なもので、はじめは面くらいました。しかし、郷に入っては郷に従えのことわりの通り、生活しますと、案外やっていけるものですね。昼とはちがった問題をかかえた生徒達が通学してきています。又、転編入してくる者もたくさんいます。いろいろの理由で前籍校で居れなくなったのでしょうか、中には安易に定時制に送り込まれてくる者もいるのが事実です。お互いにもう少し努力してみてもいいかなものかと思われることもあります。しかし、理由はとにかく、彼らの受け皿として定時制が存在する理由のひとつになってきているのも事実です。本来の定時制の意味は薄れつつあるのも

現実です。でも、そこに活路を求める者があれば、それを受け止めなくてはならないでしょう。でも、その定時制も、いつまで続くことやら…。

今の私にとって、泉鳥取で教えられ、経験した16年間のことが、自信になっています。本当に素晴らしい学校でした。未練がましいですが、最後までいたかったです。

16年間の泉鳥時代、数多くの人々との出会いがあり、別れがありました。でも、それは今は全てかけがえのないことばかりです。又、意見の異なる人達と議論し合いましたが、全て情熱です。別れ別れになりましたが、新しい職場で頑張っていることと思います。これを書いていても懐かしさで一杯です。近いうちに皆さんに会えると思うと嬉しくて仕方ありません。式典が待ち遠しいです。

私を育ててくれた泉鳥取高校がこれからますます発展して下さることを念じつつ、書きたいことはまだまだありますが、一応筆をおくことにします。ありがとうございました。

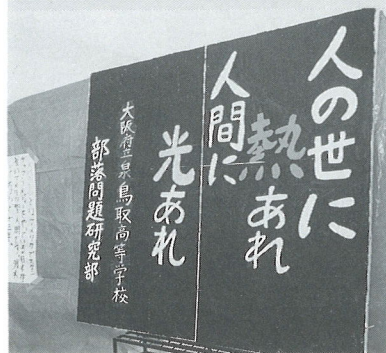
プロフィール



昭和51年創立時から本校理科（生物）教諭として勤務。阪南市出身。和泉高校（全）から新設の本校に赴任。ちなみに柿花和夫先生は和泉高校時代の教え子。陸上競技部顧問。言葉はきついが、生徒に優しい先生であった。退学しそうな生徒をじっくり話し込んで最後まで頑張らせたり、生徒が興味を持つ生物の授業を工夫したり、エピソードは枚挙に暇がない。平成4年度、府立貝塚高校の定時制に転勤、現在にいたる。

同和教育について ―一人ひとりの生徒を大切に―

梅川 邦夫



泉鳥取高校には14年間勤めさせていただきました。忙しい日が多く、つらいこともありましたが、今ふりかえりますと楽しい充実した日も多かったように思います。被差別地区出身生徒、外国籍の生徒、家庭で大きな問題をかかえていた生徒、心身に障害を持っていた生徒、目立たないけれど大きな悩みを背負っていた生徒、保護者の方々、そして教職員の皆様からたくさんのことを学び教えられました。家庭訪問をして家に帰る時、その生徒についての心配や不安は残りましたが、たいていは訪問してよかったという気持ちになったものでした。その気持ちは今の職場でも変わっておりません。それは、おそらく家庭訪問のたびに生徒について新しい発見があり、保護者の皆様から教えられ、刺激されることがあったからだと思うのです。私は本からも多くを学んできましたが、それ以上に生徒や保護者の生活、生徒の手紙やなにげない一言に教えられ元気づけられてきました。

自分の子どもの教育も同じですが、教育は一人ひとりの生徒と、その生徒の置かれている状況を

よく知ることから始まります。そして、その生徒の状況把握をもとに、生徒のすぐれているところをさらに伸ばし、良いところは大切に育て、問題点は本人に気付かせてなおしていき、これからの進むべき道を考えさせていくことが教育だと考えています。

どこの学校にも教育目標とか校訓というのがあります。しかし、たいていの教育目標や校訓は高邁な理想を掲げておりますが、抽象的で具体性に欠けているものが少なくありません。そんな中で、この世の差別を見ぬき、差別と闘い、差別のない人間が大切にされる世の中をつくっていかうという同和教育の目標は、きわめて具体的でありヒューマニスティックなものだと思うのです。この世には差別一般があるわけではありません。現実にあるのは具体的な差別です。部落差別にはその差別の歴史と、差別をなくする運動の歴史があり、外国人、身体障害者、女性等に対する差別にも、それぞれの歴史と運動の経過があるのです。個々の差別にはそれぞれ具体的に組みまなければなり



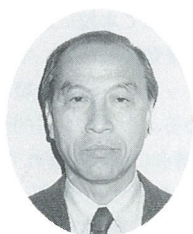
ません。今ふりかえってみますと、私たちが取り組んできた同和教育は、その時々、できる限りの努力と工夫をしてきたものの、多くは試行錯誤の連続だったように思います。同和教育にはそのままあてはめて、すぐに使える資料や手本が多くあるわけではありません。同和教育は生徒と教師が感じていることを出し合い、自分の言葉で語り、自分の頭で考えていくという共同作業的で創造的な面をもっています。教育には知的なトレーニングの側面は確かに大切です。しかし、生きる目標がつかめず、ステレオタイプ化された生き方に埋没しやすい現在、日々、新しいことに挑み創造的な面を育てていく手づくりの教育がもっと重視されなければならないと思うのです。その意味で同和教育は広く人権教育、さらに現在の教育の中身を問い、人間の生き方に示唆を与えていると考えています。講演会、映画会「親の労働聞き書き」や「近畿統

一用紙」のホームルーム、日々の授業を含めたあらゆる場面の教育活動がたとえ小さく不十分でも、その積みかさねが、やがては生徒が変わっていく芽を育てているように思えるのです。私は今、自然と一人ひとりの人間の命を大切に、人間のくびきをひとつずつ取り除いていくことが同和教育そして教育そのものだと考えております。

きたるべき21世紀は人権と福祉、環境、自然や人間との共生、貧困の克服などが大きな課題として出てくることが予想されます。教育にたずさわるものは今の時代をよく考え、次の時代を少しでも見通すために、いつも初心にかえって自分をながめ研修を続けていくことが、これからも大切であると痛感しております。

最後に人生の黄金時代を過ごさせていただいた泉鳥取高校の一層のご発展と教職員の皆様のご多幸をお祈りして、筆をおかせていただきます。

プロフィール



昭和52年、佐野工業高校定時制教諭時代、非常勤講師として本校で日本史を教え、昭和53年本校に転勤。社会科・総務部として地道な指導を行う。新潟県出身。温和な笑顔でいつも生徒や教員の相談役となっていた。特に同和教育には熱心で、地域との交流を重視、本校の同和教育は彼の手になるものが多い。「いやぁ、先生も大変ですなぁ」が口癖。平成4年度、府立泉南高校に転勤、現在にいたる。

伝統の臨海訓練

柿花 和夫

大阪府立泉鳥取高等学校創立20周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

私は昭和53年～平成2年まで保健体育科に勤務させていただき、現在、久米田高校に転勤して早や4年が過ぎようとしておりますが、10周年の式典を諸先生方と体育館で行った事が、ほんのこの間のように思われます。13年の在職の中で係わりの深かった行事の事などが、今でもよく思い出されます。修学旅行（泉鳥取では野外活動と言っていますが）では、2期生、由井先生の学年が上高地に行き梓川のほとりのバンガローに泊まり、キャンプファイヤーをした事。私の初めて担任した4期生の時は、御獄山が爆発したので急きょスキーに変更し、中筋先生や佐藤先生と下見に行き、志賀高原、蓮池のレイクホテルに行った事。6期では長谷川先生の学年が、富山県から立山アルペンルートで室堂に入り一泊して、次の日に2団に分かれ左右から立山の主峰あの雄山を全員で縦走した事など、その時の風景が今でもはっきりと甦ってきます。そして、それ以上に思い出されるのがやはり夏の水泳訓練の事です。転勤して余計に、あの臨海訓練のすばらしさを感じています。今でも続けられている学校というのは、府下で唯一ではないでしょうか。それは、やはり泉鳥取高校の先生方の熱意と生徒達との一致協力したチームワークとパワーがあるからこそ続けられているのだと

思います。その臨海で又思い出されるのは、私と同期に着任した、故長谷川晃先生のことです。3期より臨海訓練を行うということで、新人の2人で重いビデオカメラを担ぎ、山陰線を乗り継ぎあの東浜に初めて行った時の事も、たいへん懐かしく思い出されます。A班の上にスペシャルA班を作ろうと言い、SA班なるものが出来、その班の先頭に立って大きな声で「海」「これが青春だ」などの歌を歌いながら、遠泳したり、水中で海水パンツを脱ぎ、脱いだ海水パンツを振って立ち泳ぎを指導したのも、長谷川先生でした…。今思い出してもバイタリティー溢れる先生の、生徒達に懸ける情熱の深さというものを再確認する事が出来ました。この場をおかりしまして、ご冥福をお祈りしたいと思います。

最後になりましたが、新任の13年間、泉鳥取高校で勉強させていただいた、いろいろな経験が一つ一つ私の今の教職生活の中で、心の支えとなり、大きな財産となっています。本年で20周年を迎えられ、数多くの卒業生が輩出され、町で子どもさんを連れた、又、いろいろな職場で活躍されている卒業生の方々にもよく出会い、声をかけてくれ、たいへん懐かしく、うれしく思っています。今後、泉鳥取高等学校が、校訓である「自主研精」という言葉を先生方と生徒達が一体となって実践され、益々発展されます事を、お祈り申し上げます。

プロフィール



昭和53年に新任体育教諭として本校に赴任。故長谷川晃教諭とは和泉高・大阪体大での先輩後輩の関係で、本校でもいいコンビだった。保健体育科で専門はサッカー。国際B級の審判資格を持ち、現在もJリーグの線審を勤める。生徒の自主的活動にかぎりない愛着を持ち、吹奏楽部の定期演奏会には家族連れでよく来場されていた。「なあ、おい、そなんあかんのとちゃうん」が口癖。厳しいが繊細で優しい面もある先生であった。平成3年度、府立久米田高校に転勤、現在にいたる。ちなみに奥様も本校で講師として勤められていた。

生徒と教員のかかわりの大切さ

川崎 泰英



創立20周年おめでとうございます。早いものです。10周年記念式典の体育館舞台上で故長谷川晃先生（保健体育科）がサンタクロース姿で演技されたことが、ついこの間のことの様に思い出されます。

さて、泉鳥取高校の2期からの12年間は、定時制高校から転勤してきた私にとって、別の角度から、教員とはいかにあるべきか、そして教育とは何かをしっかりと学ばせてもらった期間でした。

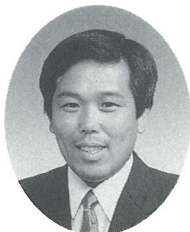
その中でも学校行事での生徒諸君と教員とのかかわりの強さは、その当時は当然のことと考えておりましたが、今思えばすばらしいものであったと思っています。特に5・6月からの付添教員のお願いに始まり、先生方の水泳講習、生徒達の班わけや班別水泳練習など経過したのち実施される臨海訓練は生徒を知るうえで思い出深い行事でした。まさに裸の付き合いであった様に思います。

臨海訓練で私自身一番印象に残っているのは、総務をやらせてもらっている時、悪天候のため遠泳を実施すべきか否かの決断しなければならない時があったことです。それまで過去一度も遠泳中止になったことはなく、条件的にも微妙な中、朝6時前に展望台付近に上がり海を見つめ、砂浜に出て波を感じ、そして状況確認後、勇気？をもって遠泳中止、小遠泳での実施を決断しました。「遠泳出来たなあ」という声も後から耳に入ってきましたが、よい判断をしたと今も考えております。

この様に教員としての様々な経験、そして生徒達との思い出を私に与えてくれた「イズトリ」に感謝しております。

最後になりましたが、泉鳥取高校の益々のご発展をお祈りいたします。

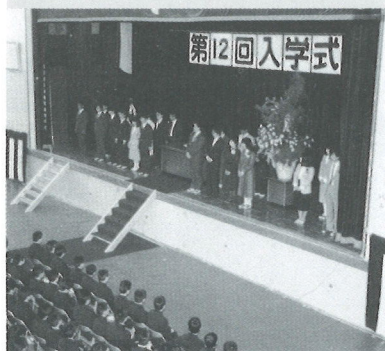
プロフィール



昭和52年、保健体育科教諭として赴任。大阪市出身。陸上競技部顧問。生活指導畑の多い体育科で、保健部を長く勤めた。厳しく生徒を指導する傍ら、おとぼけ・ギャグの好きな先生で、特に吉本新喜劇を愛好した。かわいい瞳に創立当初のパワーを秘めた熱血漢。平成元年度、府立金岡高等学校に転勤、現在にいたる。

1983—1992 in IZUTORI

萩原 直樹



同窓生の皆さん、お元気ですか。また、かつて同僚としてともに働いた諸先生方は、いかがお過しでしょうか。私は、1993年春から、通信制の府立桃谷高校で働いております。

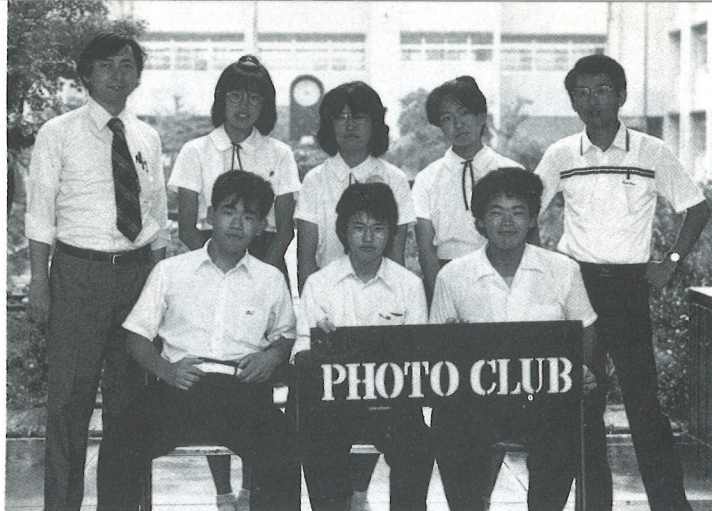
さて、私が勤務していた10年間は泉鳥取にとっての中興の時期ではなかったかと思います。創建時の熱い思いがみなぎる一方で、学力の向上や進路保障など、次の安定発展に移行するための問題が山積し、厳しくその解決が迫られていた時期がありました。私にとって、大事な中興の事業に参加できたことは、幸せであったと思っています。

それまで勤務していた高校で「生徒の気持ちを理解すること」と「先入観に捕らわれず現実から学ぶこと」の大切さを教えられ、また、山村の小・中一体となった学校では「子供の成長の過程」をつぶさに観察でき、「保護者の思いに応えること」と「個々の生徒にあった学習内容と方法を見いだすこと」の必要性を痛感しました。泉鳥取では、再雇用してくれた大阪府民への恩返し of 気持ちで、

様々な問題に全力で取り組み続けました。病気のまま残してきた父親は、成果を見ることなく赴任直後の5月に没しましたが、そんなこともあって、よりきびしく生徒や先生方とむきあったと思います。

成績会議での厳しい議論で鍛えられ、「自分の力に自信が持て、他人を信頼できる人間」になって欲しいという思いから、「怠けないかぎり落とす心配がなく、努力した分良い成績を取れる」評価法を岡村先生と頭をひねって編み出しました。その結果、「最も厳しい物理」が「最も5・4が取れそうな物理」に変わっていきました。その秘密は「生徒が納得し、希望が持てる評価法」の浸透にあったと思います。同じような工夫は各教科でもされていたと思います。

また、生徒諸君からの「何で物理が要るねん」という質問にさらされて、労災や交通事故に遭わないように・詐欺商法に引っ掛からないように・後を任せられるようになって欲しいという気持ち



から、「身を守る」「だまされない」「新しいものを生み出す」力をつけるための物理を心がけるようになっていきました。その陰には、7期生のK君が単車事故で命を落としたことへの無念の思いがありました。

クラス担任としては、できるだけ早い時期に面談をできたときは思うような結果が得られましたが、油断して最初の状況把握ができなかったときには、しんどい場面になることもありました。

兄弟・姉妹で受け持った生徒も多く、次第に和やかに過ごすときが多くなっていきました。8期生の2年2組の担任をしていたときは生徒とぶつかりながらも、気持ちを汲みとってくれたのか、何とか全員進級を果たすことができました。11期生の時は2年連続で担任をもち、クラスメイトで結婚したカップルもありました。14期生は本格的なバザーをやり16期生は、手製のUFOキャッチャーで見事入賞しました。覚えていますかK君。ほとんどが2年生の担任でしたので、直接進路には係

わりませんでした。できるだけ早く目的をもって欲しいと思い、職業や資格などについて様々な資料や作文などを掲示したことを覚えています。3年生になって、就職や学校が「決まりました」と報告にきてくれたときは、嬉しいものでした。長引く不況の影響が懸念されます。

生徒と職員にとって、最も辛かったのはクラス定員が「過飽和」ともいえる数になったときではなかったでしょうか。1990年度に中村直先生を失ったことは忘れられません。その後、クラスの増展開など、先生方の努力が報われ、教職員の増員も認められて、事態は好転しました。私達の運動がもう少し早く実を結んでいれば、と思ったのは私だけではないと思います。決して平穏ではなかった10年間の最後に思い至ったことは、「学校は生徒のためにある」とことと「良心に従って、誠実に対応し、勇気を持って行動することの大切さ」でありました。I Z U T O R I の発展を祈って筆を置くことにします。

プロフィール



昭和50年、大学卒業後府立泉尾高等学校に教諭として赴任。その後父親の病により大阪府を退職、郷里の山形県山形市の中学校教諭となるが、昭和58年本校教諭として赴任。物理科・総務部として活躍。「本校生徒がわかる物理」を目指して奮闘し、後年には問題集を出版している。T L 法（熱ルミネッセンス：加熱した石英の発色で石器や土器の年代を測定する方法）の研究では全国でも有数の研究者。「何やってんだ、おめえ」という独特の山形訛りが口癖。平成4年度、府立桃谷高等学校通信制に転勤、現在にいたる。

泉鳥取の教育を発刊し終えて

◆
岡村多加志



1992年12月3日の職員会議で、2年生からの類型の実施が可決された。その夜、自宅に帰ってから一晩中いろいろなことが頭の中をよぎり眠れなかった。職員会議で可決はしたとはいうものの、それから実施までに行う作業の困難さ。共に生徒を思う中で、「自然学級」の方が望ましいという同僚の反対意見。新教育課程検討委員会（略称新カリ委）で検討して出した結論に対する思い。いろいろなことが頭の中をよぎり、さて、どうしていいかと考えているうちに夜が明けた。

新カリ委が発足したのは、1991年4月。当時は教務の渉外をしていたので、M先生に1991年の間に、基本的なアウトラインを引いていただいた。平成3年に入り、教務の渉外がM先生に代わったのを受けて、教務部への最後の恩返しという思いで新カリ委の委員長を引き受けた。議論は新カリの教育課程を決める胸突き八丁の苦しいところにさしかかっていたところだった。物理準備室で教務部や進路指導部の人達を中心として週に1度の会議を開いていたが、話がなかなかかみ合わない。いろいろな意見がでるが、「類型」、「選択」、「自然学級」の3つの案それぞれ甲乙つけがたく平行線で話が終わることが多かった。学年ごとの単位数についても、どうしても1年の単位が増えてしまい、調整するにもうまいかなかった。物

理室で私が悩んでるのを見かねて、同僚のH先生から、「新カリ委でゴチャゴチャ話をしていても、全体に伝わっていない。みんなが新教育課程に向けて考えを持てる機会をオープンに作るべきだよ」と助言していただいた。1992年の7月に提案した2年からの選択案（折衷案）も賛否いずれも過半数を得ることができずに、新カリ委への持ち帰りとなった。それまで30回の会議を繰り返していた新カリ委の委員からも、「基本的な見解の相違が大きく、これはなかなかまとまらないのではないか」という話も聞いた。7月での職会での差し戻しとH先生の助言に基づいて、9月から「泉鳥取の教育」というタイトルでいろいろな意見を載せる新カリニュースのような新聞を発行し始めた。題字はO先生に夏休みをお願いして立派なレイアウトの題字を頂いた。

9月からは思い切っていろいろな意見を載せた。基本的な見解の相違（「自然学級」と「選択」と「類型」）をできるだけ目立たせるように、紙面に特徴を持たせるように工夫した。それまでに泉鳥取を作ってこられて転出された先生からも、いろいろな意見を頂いた。（私のわがままな希望に快く原稿を書いていただいた前任の諸先生方には、心からお礼申し上げたい。）新カリ委で教科に持ち帰って頂いて、その意見を再び持ち寄ることが



通例の形であったが、するとどうしても自分の教科を優先した意見が戻ってくることが多く、暗礁に乗り上げて話が進まないことも多かった。

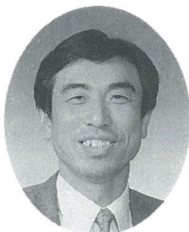
2学期にはいってからは、教科の枠をはずした「小集団による話し合い」を同推委に協力していただいて2回も持っていただいた。「小集団による話し合い」を学期に2回も持って頂くのは、きわめて異例のことだった。そして、いよいよ冒頭の職員会議を迎えることになった。私自身は、やれるだけのことはやったので「自然学級」なら「自然学級」、「類型」なら「類型」と決着がつくことを望んでいた。新カリ委の人達の努力もほぼ限界に近づいていた。結局は新カリ委の原案通りの2年生から類型が決まり、新教育課程で新しい試みを実施してみることが大枠で決まったことになった。

「類型」と決まってからが後がまた大変だった。一方は国語・数学・英語の中から、1科目選択することで決まっていたが、もう一方の方が情報関

係の科目を実施するというだけでは決まっていなくて、具体案を煮詰める必要があったからである。商業科目検討委員会を作りT先生に委員長を努めていただいた。これも、本格的な簿記等を実施するという声から、商業一般・情報処理・文書処理などいろいろな案があった。1993年度にはいり、国語科の先生方の大変な勇断で文書処理を国語科と情報処理担当者の2名が同じ教室に入るという方法で2年類型についてのようやくの決着をみた。

1994年度以降のことについては、泉鳥取を転出したのでよくわからないが、新教育課程で新しい試みを実施することになったので、各教科の先生方（特に国語科と情報処理担当者）にご苦勞をかけていると思う。新しいことを試みることは言葉にいえぬ苦勞がつきもので、実施にいたるまでの努力がさぞ大変なことだと思う。途中で転出してしまい、軌道にのせる努力をしている人達にこの場を借りてお礼をいいたい。

プロフィール



昭和59年、東京都立北多摩高校を退職、本校教諭として赴任。岸和田市出身。総務部で本校旅行規定をはじめて定めた。その後教務部、平成元年から平成3年度まで教務部渉外（現在の代表）。平成4・5年と新学習指導要領施行に先立つ新カリキュラム検討委員会の委員長を勤め、現行の新カリキュラム作成作業の中心的人物。好奇心旺盛で、とことん突っ走るタイプ。泉鳥取の教育を「情熱的」に語る姿は記憶に新しい。平成6年度、府立岸和田高校に転勤、現在にいたる。

ふりむけば泉鳥取ハナミズキ

◆ 三宅 欣市

自然田の闇に浮かび上がる校舎の屋上、そこから見る夜景には尾崎や樽井の人々の暮らしの灯火が映っている。関西空港の姿はまだなかった。1987年6月のある日の午後10時、奇態な熱病に感染した生徒達と共に文化祭のビデオ撮りで屋上に上がった時、目にした夜景が忘れられない。一カ月の間、土曜も日曜も文化祭。それで平気だった。若かった。職員室にいるより、放課後教室で生徒と喋る方が楽しいとまで感じられた頃だった。

「木枯らしに抱かれて」という曲と共に卒業していった彼ら10期生は、3年間担任として付き合った最初の生徒だった。この仕事をしている今の自分の一部は彼らとの付き合いを通して作られたものだ。久米田高校に転勤してしみじみ思うのは最初の赴任校の重さということ。もしも、「泉鳥取」ではなく同学区の別の高校だったら、もしも、あの生徒やあの先生と出会わなかったら、自分は随分違ったタイプの「教師」になっていたのではないか。多分、今以上に駄目な鼻持ちならない「教師」になっていた可能性が強い。そしてその事に気づきもしなかっただろう。

校務分掌は生徒自治会。最初から最後まで生徒自治会の顧問だった。何度か他の分掌へ変わろうと試みたが駄目だった。嫌いな仕事ではないので諦めた。生指や進路の重要度に比べ、軽く扱われがちな仕事だった。生徒のガス抜きのため校内イベント屋と自分も最初は思っていた。しかし本質はそうではない。およそ高校から生徒自治会を減算すれば「予備校」しか残らないではないか。そして我が泉鳥取高校こそ「予備校的なもの」の対極にある学校だった。以下にその思い出を点綴する。

1年生の寝室に当てられた大広間の方が騒がしい。就寝時刻をはるかに過ぎた深夜だった。会長のHと役員Fは顧問と同室のベッドで寝ていた。合宿参加者のホームルーム委員は男女が襖一枚を隔てた部屋で寝ているのだ。したたかなYやSといった古株の顧問は既に高野の中で、目が覚めた

小心な2年目の顧問だけが気を揉んでいた。やがてFの怒りに震える声が聞こえた。「もうがまんできるか。俺は行く」Hの懸命になだめる声が重なる。いつのまにか男子の役員が心ならずも「生活指導」の役回りを務めていた。最悪の事態を危惧しながらも彼に任せることにする。やがて廊下にFやHの太い声が響いた……。

豪胆に生徒に任せ切るべき時には任せ切ること、そうしなければ生徒の自主性などは育たないことをY先生やS先生の高野は教えてくれた。10期生より始まった信太山野外活動センターでのリーダー合宿は、ホームルーム委員よりもむしろ執行部員が鍛えられる場所になっていった。今、Hは絵本を描き、画家になる夢を暖め続けている。Fは1級上の同じ執行部の役員だったY子と結婚し2児と共にアメリカのトレントンで暮している。彼女はあのリーダー合宿の時、大広間で寝ていたのだ。アメリカから来た手紙を読むたびに僕はFの怒りに震える声を思い出すのである。

毎年春と秋の役員改選の時は頭が痛い。自ら立候補する者はニホンカワウソよりも少ない。執行部9名の大半を顧問が東奔西走して確保せねばならない。脈ありげな生徒を草の根分けて探し出し、肩を抱くようにして、言葉巧にかき口説く。悪徳芸能プロダクションもかくやと自嘲することもあったが、不思議と選挙直前には候補者が出揃った。

9年間100名近い執行部役員と接して来た。彼や彼女らの胆力、人間力には舌を巻くことが多かった。泉鳥取で、こういう立場で活動する生徒の困難さは想像にあまりある。頑張れば頑張るほど一般の生徒から浮き上がる。正当に評価してくれる教員は多くはない。時には頭を抑え付けられる。部内の人間関係の確執もある。10代後半の少女が直面する困難と全身全霊を込めて格闘する姿は、結果の成否を問わず胸を打つものがあった…。

10周年記念式典で壇上から祝辞を延べたHは馴れ慣れた陰に冷静な大人の目を持っていた。立候補者の調整をめぐって、泣き声や罵声が飛び交う職



員室の中、手を拱いて棒立ちする顧問の前で誠意、事態を收拾してみせたNの人間の大きさは母性すら感じさせてくれた。早く下校させようと指導するM先生に泣きながら抗議し続け開会式で展示するゴジラ作りをやめたかったW。前任の役員を正面切って批判し十数年ぶりに対立候補に立ったTやK達。立ち会い演説の時泣きながら跳び箱にしがみついて離れなかったIは、その後執行部を喜々として仕切っていた。今彼女は阿倍野近鉄百貨店ギフトセンターの最も有能な店員の一人である。

漫画研究部長も兼任していたKは最も成功した文化祭開閉会式の演出者だった。彼女の生徒自治会ノートに書き付けられた僕への批判はこたえた。

職員会議で後夜祭の企画が蹴られた時も通った時も同じくらい大泣きしたMは、“泉鳥取”に通う喜びと哀しみを透徹した目で凝視し続け、“泉鳥取”を最も強く一身に引き受け切った生徒の一人だった。おこがましくも離任式で朗読させてもらった『翼をください』の感想文の書き手でもある彼女は、この春から関西空港で働いている…。

彼や彼女らは3年後には確実にたくましく、賢く、美しくなって巣立って行った。それを見届けることは愉快だったが、さて自分はそれほど成長したことか。「欣ちゃんは彼女もいないのに土曜日はすぐいなくなる、言うて怒ったぞ」こう教えてくれたのは故中村直先生である。苦笑する他なかった。理想を並べたがるが気分屋の自分と

は対照的に、いつも静かに生徒と体を動かしていた直先生と全ての執行部役員だった生徒に改めて感謝の気持ちを捧げたい。

一昨年の秋、僕をいきなり披露宴の主賓席に座らせて冷や汗をかかせてくれたKはあの6月の深夜に校舎内を走り回っていた主役の一人だった。昨年同級生と結婚したCは夫婦生活にまつわる楽しい愚痴を語りながら手料理を御馳走してくれた。「担任」する喜びを教えてくれたOは保母を辞めてまもなく結婚する。単車で我が家も巡回してくれる消防士のTは、一緒に飲んだ時、手話サークルで知り合った可愛い彼女の写真を見せてくれた…。初めて担任した10期生の多くが人生の新しい階段を昇り始めたようだ。もはや説教ひとつするでない僕は、かつて未熟な教師として偶然関わった彼らの“大人の姿”を見ることに静かな喜びを感じている。泉鳥取高校と小さな丘ひとつ隔てた窪地に住む僕の所へ時折届く彼らの声が、もう若いとは言いい切れない僕を生に向けて励まし勇気づけてくれる。

我が家の鼠の額ほどの庭に一本の樹木が植わっている。敬愛するU先生が結婚記念にと贈ってくれた腰ほどの背丈の花水木。校花である。白い花弁の先のみ淡い薄紫に染めて毎春開花するこの木に、媒酌人のU先生はどんなメッセージを内包させようとしたのだろうか。花水木の背丈が一階の天井に迫っても、“泉鳥取”の卒業論文を僕はまだ提出できないでいる。

プロフィール



昭和59年新任教諭として本校に赴任。国語科。生徒自治会顧問として活躍。生徒との付き合い方が上手で、「生徒たらしの欣ちゃん」と有名。いつも「うーん」とうなり、生徒の肩をそっとたたいて「ちょっと、ええかな」とくる。この方法に何人の生徒が騙されたか……。生徒への眼差しは冷静、かつ暖かくて、大声でけっして怒ることのない先生だった。大学時代は文芸部に所属し、彼の文才には定評があった。平成4年度、府立久米田高校に転勤、現在にいたる。

思い出多い泉鳥のHR

◆ 山本 三郎

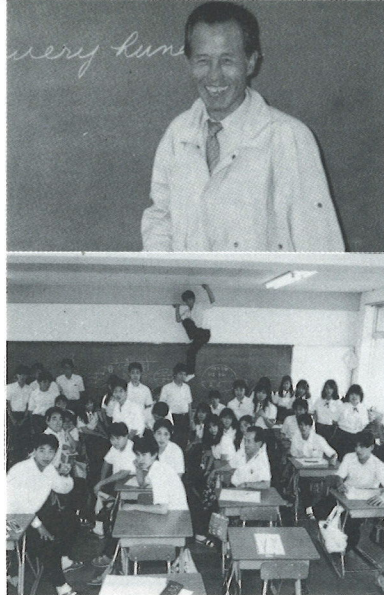


泉鳥を退職して、早3年になる。私は、泉鳥を懐かしく思うとき、楽しかった泉鳥のHR（文化祭の取り組みも含めて、）がまず頭に浮かぶ。私は、泉鳥のLong HRは生徒が集団を自覚し、自らを変革し、教師が人間として耐えられる場であったような気がする。私はHRで、生徒の前で大声で笑ったり、泣いたことも、謝罪したこともあったし、怒りに燃えたこともあった。HRは、もろに、教師の人間そのものが出る場、生徒と教師との絆の生まれるときだった、と言えはささか大袈裟だろうか。総じてHRは楽しかった。昔の泉鳥を懐かしみ、私の忘れられないHRを1つ2つ紹介しようと思う。

私は、HR担任をすると、その年内にどうしてもやっておきたいHRのテーマを2つ持っていた。1つは「人の死を考える」もう1つは「いじめを考える」である。独自のHRというのはなかなか持てないものだが、一斉同和HRのときに、この

ようなHRを独自に設けて、行ったものである。勿論、全体の計画は大切にしつつ、その中に今のHRの課題と結合させてこそ生きた同和HRだと信ずるからである。「人の死を考える」のテーマで忘れられないのは、ある年の1年2組の3学期、私の死んだ母への思いを語ったときである。「僕の母は苦勞の連続やった。僕が7才のとき、父は48才で死んだ。兄2人は戦争にとられ、姉2人と僕の3人の子どもを、母1人で育てないかんかった。飢えのため何回か倒れたことのある母を見て、僕は子ども心なりに、この母は粗末にはできないぞと思ったもんや…」母は83才のときから老人性痴呆が始まり、88才でこの世を去るのであるが、母への様々な思いを交えながら、痴呆と戦った母の死に様を淡々と語った。女生徒の何人かとこの日HRに参加した副担任のS先生は目を真っ赤にしているのが私の目に入った。

今の生徒のほとんどは、核家族の中で人の死の



莊嚴さに遭遇していない。人の死は、特に愛する人の死は、後に残ったものに対して大きな意味を持つ。死の莊嚴さを知り、生命の尊さを知る。このHR以来、私は「死」をテーマにしたHRが今の生徒には必要だとつくづく思うようになった。

2つ目のテーマは「いじめ」である。平成〇年1年〇組のHR。Yという生徒が不登校で約1カ月連続で欠席した。最初Yの口からその原因らしいものは伺えなかったが、「クラスに友達がいらない…」ともらす彼の言葉の裏に、私は「いじめ」があると直観した。（2年後彼の長い手紙から「いじめ」の事実を知る。）私は、真の主訴はなかなか表面に出てこないもので、それを見抜く目が教師（カウンセラー）に必要であることを知らされた。彼は1カ月後に学校に復帰し、文化祭の取り組みの中で、自らの居場所を発見し、新しい自分作りを始めることになる。私は、誰が（複数かもしれない）彼にどんな形で「いじめ」を与え

たかわからないまま、「いじめ」に対する私なりの対応をしてきたが、「いじめ」をテーマとしたHRは、Yの不登校の総括の場として、同時にその時のクラスの課題と結合させた同和HRとして必要だと考えた。いじめられた体験やいじめた体験を語らせるこの日のHRは、大声でどっと笑うと思えば、次の瞬間シーンと静寂がクラスに漂う。担任の一言一言がクラスみんなの心に落ちていく感じと、Yの真剣な眼差しを今なお思い出す。私はこの学年を最後に退職し、私の第4(?)の人生を歩むことになる。

私は、泉鳥でこのようなHRができたことを、教師生活の思い出を考えると私の宝物であると考えて。泉鳥での私のささやかな体験（不登校生徒等との関わり）と、同僚の先生方、更に卒業生達が、私にこの道へ進むエネルギーを与えてくれたと心から感謝している。

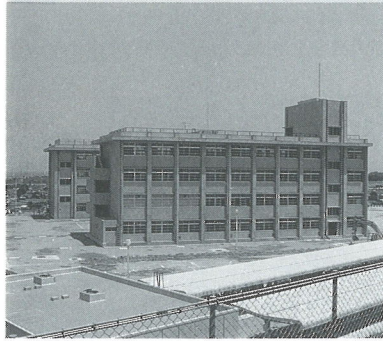
プロフィール



昭和57年、府立登美丘高等学校から本校に転勤。岸和田市出身。英語科、生活指導部の相談係として活躍。特にカウンセリングには熱心で、本校にカウンセリングマインドという言葉を広げた。クラス活動に熱心で、特に文化祭では、登り窯や巨大水車、巨大オルゴールなど新たな提案と大規模な作品で他のクラスの追従を許さなかった。平成4年度、定年にあと数年残して本校を退職。その後はカウンセラーとして第二の人生を選び、活躍中。

創立当時の泉鳥

◆
森元 勝



昭和51年4月に創立、自分の卒業した泉鳥取高等学校が今年で20周年、正直言って、もうそんなに時間が過ぎたのかと思う。

私は1期生なので創立当時のことを中心に述べたい。地元に住んでいたので中学生の頃から、山を削り校舎が造られていく様子を見ていた。また、通っていた中学校では、地元で高校ができるということもあって、担任の先生が勧められていた。その結果130名という今では考えられない数の生徒が入学をした。初年度は45人学級で10クラスだったので、中学時代の友達も、クラスの中にたくさんいたので不安はなかった。

校舎は現在の半分もなく、毎年次年度の為に増設の工事があり、授業中少し音が気になった時期があった。体育館、食堂、プールなどの施設がない状態で、グラウンドはかなりたくさんの石ころがあった。今でも、やはり体育の授業は特に覚えている。なぜならば、雨が降るとグラウンドの水

はけが悪く、しばらく使用できずよく学校周辺の造成地へ走りに行ったし、雨の日は校舎と校舎を結ぶ渡り廊下が体育館のかわりになった。

体育科の先生方もいろいろ工夫されて授業を進めておられたと思います。また他の授業でも、熱心に教えていただき、夏休み、冬休みと補講もしていただき、受験に大いに役に立ち有り難く思った。自分にとってこの学校には思い出があり、在学していた3年間はとても充実し、成長させてもらった。設備的には十分ではなかったけれど、いい出会いができ、人には恵まれたところだった。よき人との出会いがあり、自分が常に前向きに向上できる学校が本当の意味での「いい学校」で、決して他人が決めるものではなく、自分の中に創り自分が判断して決めるものだと思う。

最後に、泉鳥取高等学校の益々のご発展を祈念いたしまして、記念誌に寄せての言葉とさせていただきます。

プロフィール



森元 勝（1期生）

サッカー部に所属、体育祭応援団長としても活躍、目標を定めるとまっすぐに突き進む努力家。大阪教育大学を経て、現在泉佐野市立日根野中学校教諭。

泉鳥はまさに人生の出発点

須崎 孝

雨の日の合格発表、あの日は緑ヶ丘の坂道を重い足取りで登った。しかし、帰りは何と軽やかだったことか。寒風吹き荒ぶ中庭での入学式。校舎、教室、グラウンド総てが一からの出発。何の伝統も歴史もない全くの白紙の状態からの出発だった。

そして、私にとってその出発点はクラブ活動だった。高校入学を機に野球部をと言う声が高まり、一部の生徒から署名運動が始まった。私もその中の一人、しかし、グラウンドが狭く危険との理由でやむなく断念。中学で3年間続けたバレーボール部を結成することになった。部員は、中学時代のライバル達や全くの初心者という寄せ集め。経験者を中心として、中学時代のトレーニング方法をもとに、初心者にも易しい泉鳥バレー部独自の練習方法を皆で考えた。また、体育館がなかった為、グラウンドの石拾いからのコート整備。レシーブをするたびにウェアが破れ、手足を擦り剥く毎日。雨の日は、校舎の渡り廊下での柔軟体操。試合では、コート事情の違いから実力を出し切れずに悔し涙を何度飲んだことか。しかし、そんな折、部外から3リーグへの昇格、皆で喜び合ったのを忘れることができない。2年生後半には、念願の体育館が完成、週に3回の使用が待ち遠しかった。勿論、生徒だけでなく、クラブ顧問の先生方の意気込みもすごかった。

次に、私は初回の生徒会活動にも、運良く体育部長として参加することができた。まずは、先生方を中心として、1・2期生共に生徒会のチーム

ワークを固め、次に、他生徒への生徒会参加の呼び掛けという全くの基礎から始めた。体育祭、文化祭などでは、無い知恵を絞り、泉鳥独自のものをいろいろな思案した。例をあげると、体育祭では、今なお引き継がれている泉鳥取りレーは、第1回からのものだ。文化祭では、各クラスの出し物（劇、合唱、ビデオ撮影、喫茶店等）や各文化部の展示、個人のステージ、ショー、また特に美術部からの絵画展覧は、目を見張るものがあった。ここでも、先生、生徒は皆一体となって協力し合ったのを覚えている。

そして、3年生になり、進路問題では、より一層先生方に力が入ったのを感じた。初めての進学、就職問題をかかえ、呑気な生徒達をよそに先生方は、少し先走りをしていた様にも思える。特に学校のレベルを上げようとする気負いがあったように思える。私も一時は、大学進学を真剣に考えたが、正直、その先生方の気負いに多少の反発があったのかもしれないが、何より自分の性格はサービス業にむいているのではないかと思い、実践的な専門学校の道を選び、現在は、旅行会社に勤務している。

そう、あれから20年。学校の歴史と共に結婚生活をしている夫婦が結構いる。生徒同士、先生同士、生徒と先生（アベック校と言われるゆえんか）。当の私達夫婦（1期生同士）もその1組で、そのころからの付き合いだ。私達にとって泉鳥は、まさに人生の出発点であった。

プロフィール

須崎 孝（1期生）



高校時代はバレーボール部でキャプテンとして活躍。生徒自治会初代体育部長として、自治会活動の基礎づくりに汗を流す。専門学校で観光コースを専攻。現在、三鶴航空サービス(株)勤務。

私の人生を大きく変えた高校生活

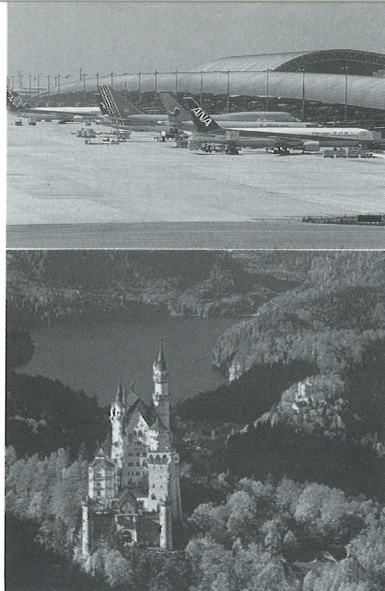
宇都 信一



創立20周年本当におめでとうございます。思い出せば早いもので、私が母校を卒業してもう10年程になります。在学中は本当にいろいろな事を経験させていただきました。私は現在29才。ドイツのフランクフルト近郊の町で暮しています。というのは、3年前の92年4月頃、大学を卒業後就職した西武百貨店旅行事業部を退社して、現在のルフトハンザ・ドイツ航空会社に日本人乗務員としての仕事を得たからです。私は特に日本人のお客様を飛行機の中でお世話しながらフランクフルトから大阪或は東京へのフライトに就いています。このような仕事に就けたのも母校での経験があってこそだと今でも確信しています。

入学当時、私は中学時代から続けていたバレーボールに朝から晩まで熱中していました。しかしある時、ふいに自分を見つめなおし考えさせられる事がありました。それは大学入試でした。私はこのまま部活をしていたら絶対大学は無理だろうと思い部活をやめ勉強に力を入れる事にしました。しかし普段勉強ぐせのなかった私はどうしていい

かわからない状態でしたが、担任の先生方の協力で少しずつ進めていくことが出来ました。そして2年在学中、突然父からある新聞記事を見せられました。それは「大阪府高等学校生徒中国派遣団員」の募集の記事でした。私は全然自信はなかったのですが、早速担任の先生にその話をすると、実は我校にもその通達が教員委員会から来ているとの事で、学内選考に応募する事になりました。選考内容は、「私が中国へ行きたい目的」という論文を書くことでした。幸運にも学内選考を通過して、教育委員会への選考へと進む事が出来ました。そして数日後、その選考もパスし、派遣団のメンバーとして中国各地の高校生との交流に参加出来る事になりました。訪問は1週間の日程で、上海、蘇州、南京、北京の高校生との交流でした。交流を通じて、生まれて初めての国際舞台で沢山の事を勉強できましたが、何と言っても現地の学生と知会えた事はいまでも自分の成長につながったと思っています。そしてこの体験と、帰国してからの友人達との文通を通して、私の将来の目的が



大きく変わったのです。文通や、現地での会話などを通して、私は英語がどんなに大切であるかという事に気づき、中国以外にアメリカの学生とも文通を始め、出来るだけ英語の勉強に力を入れ始め、当時の英語担当の先生に何度も何度も手紙の内容や教科書などわからないところを聞きに行くようになり、先生もいつも協力して下さいました。するとある日、その先生から英語の勉強をアメリカ人の先生の手で出来るからとの事で、大阪府赤十字イングリッシュセミナーに参加させてもらうことになりました。セミナーは毎週土曜日、大阪市内で半年間行われました。大阪各地の高校生が20人程参加しており、ボランティアの学生も先生として会話を中心にセミナーが行われました。そこで私は、ボランティアの学生から高校留学の話聞き、早速両親と相談し、留学試験をうける事にしました。セミナーで勉強していたおかげでなんとか試験にパスし、とうとうアメリカへ留学する事になりました。留学は1年間アメリカ人家庭

にホームステイしながら地元の高校に通うというもので、最初は何もわからず不安でいっぱいでしたが、すぐに生活にも慣れ1年がたってしまいました。

帰国後、また母校にもどり、残りの1年を通学し、英語の勉強以外に他の外国語も学びたいと思い、外国語大学に進みました。そして4年の学生生活を卒業し、先にのべた旅行事業部を経て、現在の仕事に就きました。ドイツに来てもうすぐ3年になります。生活や言葉の方も少しずつ慣れていき、今は楽しく過ごしています。時には大変困難な事にも直面しますが、負けずに頑張っています。それが自分の成長につながっていくからです。

最後に、私がこれまでいろいろな経験が出来たのは母校の諸先生方のご協力と両親の理解があったからこそだと本当に感謝しています。在学生の皆さんも自分の目標に向かって頑張ってください。ありがとうございました。

プロフィール

宇都 信一（7期生）

2年生終了時、アメリカ留学（1年間）。その後、関西外国語大学英米語学科を卒業。セゾン（旅行会社）を経て、現在ルフトハンザ航空のパイラー。趣味は料理。



夢に向かって精進していこう

◆
日根野谷潤



絵で食べられるようになりたいと思いはじめて早くも20年。リーチはかかるものの未だあがれずいやはや我ながら全く困ったもんです。

ここ3年程定職もなく、家の手伝い等しながら絵を描いているわけですが（巷でいうところのプータローです）纏まった収入が無い事以外は結構満足できる生活を送っています。

絵で食べられるようになるという事は難しいと外野からよく言われたりしますが、余計なお世話です。ただでさえ競争相手の多い業界ですから「自分なんかは…」であるとか「難しい……」等と考えているようでは確な絵が描ける訳がない、即ちプロには成れないのです。

『苦勞すれば報われる』という言葉はダイキライですが、一生懸命頑張るという事は美しくて尊い事だと思います。「信じていれば夢は必ず叶う」と谷村有美も言ってくれてることでし、欲するもの全てを手に入れる為に今後も精進していこうと思っています。なんでもやる以上はより上を目指さなければ、約80年の人生がもったいないし面白くないではないですか。

プロフィール

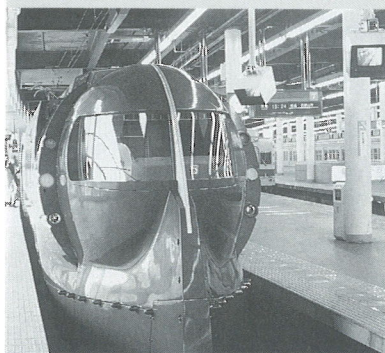


日根野谷潤（9期生）

在校中は、生徒自治会会長として活躍。泉鳥取史上最も指導力のある会長の一人であった。漫画研究部に所属、卒業後もOBとしてかかわる。イラストや絵画を生業とすべく、現在も努力中。

学校の思い出と近況

◆ 峯垣外武利



在校生の皆様そして諸先生方、創立20周年おめでとうございます。創立以来築き上げてきた歴史を大切に、教育方針・自主研精や心得を重んじ、これからもより一層の繁栄を期待します。

振り返りますと在学中は、実にさまざまな出来事があった3年間でありました。学業・クラブ活動そして趣味など均等のとれた学校生活を送ることができました。

年末など私の机の周りを整理していると、高校生の時の写真や卒業アルバムなどが出てきました。日頃、仕事や遊びに追われ在学中の頃の事は思い出しませんが、整理の手を休めて写真を見てみると、高校生活が実に楽しいものであったことが思い出されます。また修学旅行のスキーの写真も一緒に出てきたりして、同級生やスキー場の景色、また学校の校門から始まり教室・先生方の顔、剣道部の道場や部室そして後輩の声などが、頭の中を駆け巡り、卒業して6年目になりますが、鮮明な画像で思い出します。もう一度高校生にもどりたいと思うのは、私だけではないと思います。

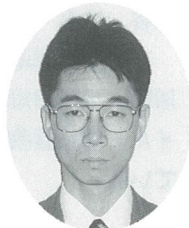
また、2年生の終わり頃、就職希望か進学希望かについて、悩み苦しんだ時もありましたが、担任の先生に話を聞いて頂いたり励まされたりもしましたし、我が剣道部の顧問であった妻木先生とも進路について相談したこともありましたが、結局は就職することに決めました。私は良い先生方に巡り会えたと感謝しております。

最近では泉鳥取高校を卒業した後輩が、南海電鉄に入社し、駅係員として、また、電車の乗務員として働いています。職場内で面識がなくても同じ学校を卒業しているというだけで、声もかけやすく、また、そこでも学校や学校生活についての話でもり上がり、話は尽きないものです。

ここ数年、バブル崩壊により景気が低迷し、円高や雇用調整等により就職が大変な状態にありますが、21世紀を見据えた幅広い視点で、立派な社会人の育成を目指し、新しい泉鳥取高校の発展に向けて、先生方そして在校生の皆様の一層の健闘をお願いいたします。

プロフィール

峯垣外武利（11期生）



1年から剣道部に在籍。真面目と努力が服を着て歩いているような生徒だった。成績は優秀、欠席はなくクラブでも副主将を務める文句のつけようのない好男児。ちょっと「堅い」のが玉に傷。卒業後、南海電鉄(株)に入社。現在は列車を運転している。南海電鉄の剣道部に所属し、現在も剣道を楽しんでいる。

文化祭 — 友達との大切な交流の場 —

◆
渋谷 千恵



はじめに、大阪府立泉鳥取高等学校創立20周年おめでとうございます。自分が卒業した高校が、そんなにも出来てから、年月がたっていたんだとびっくりしました。私は、現在、毎日の通勤で高校が見える道を通っています。時々、高校時代のことを思い出してしまう時があります。

私は、第11期生として泉鳥取高校に入学しました。そして、偶然なのかクラスも11組ということで、とても印象に残っています。高校時代の思い出としては、文化祭がおもしろかったように思います。高校1年生の時は、輪なげや金魚つりなどある夜店をしました。部屋を暗くして雰囲気づくりに力をいれたように思います。また、店番もあり、友達もこの時にたくさんできたように思います。2年生の時は、ビデオをつくりました。台本から、ビデオ撮影、編集まで自分達の手でしました。だから、その分完成した時、すごく感動がありました。また、スタッフ名をビデオでとる時、黒板に順番に書いては消してのくり返し作業を、

長い時間したように思います。3年生の時は、迷路が体の中にある怪獣をつくりました。中心に木を使い、あとは竹と新聞紙をうまくつかって、曲線と立体感を出しました。“みんなでつくったぞ”と、というような作品でした。私にとって文化祭は、高校に入学してからはじめて、たくさんの友達と仲良くできた大切な交流の場だったように思います。

今、現在、私は、和泉市にある私立の幼稚園で教諭として働いています。人に教える立場になり、とても苦勞しています。でも、毎日がとても充実しており、楽しいです。学生の頃は、自分がこの職業になるとは、全く考えつかず、今、自分が教諭をしている事は、私自身とても不思議に思っています。

社会人になってからいろんなことがあります、いつまでも、若い気持ちをもって、また、思い出を大切にしながら、がんばっていこうと思っています。

プロフィール



渋谷 千恵（11期生）

在校中は華道部部长、生徒自治会役員として活躍。千代田短期大学を経て、現在は和泉チャイルド幼稚園教諭。3歳児の担任としてはりきっている。

高校の3年間は大きな宝

◆
楠原 博文



泉鳥取高校を卒業してから6年が過ぎました。高校の前を通り、校舎を見る度に懐かしい高校生活が思い出されます。いろいろな事を学び、経験した高校生活は、自分にとって大きな3年間だったと思います。

まだ身も心も小さかった1年生の頃は、体育の柔道の時間に喧嘩をしたこともありました。夏の臨海訓練は、C・D班で泳げずに悔しい思いをしたものです。2年生になってからは、クラブ活動一色でした。校舎の東側の隅っこにあるテニスコートで白いゴムボールを必死になって追いかけたものです。試合に出ても全然勝てませんでしたが、軟式テニスの魅力に引かれ、大学の4年間、そして社会人になった今でもテニス続けることになりました。2年生の2月には志賀高原へ修学旅行に行き、スキー初体験をしました。ここでもスキーが好きになり、毎年冬にスキーを楽しむようになりました。3年生で一番の思い出は、体育祭です。クラス対抗リレーでアンカーとして1位を走って

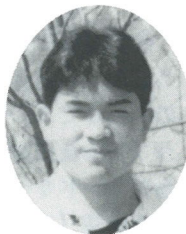
いたのですが、ゴール直前で派手に転んでしまい、左の肘を脱臼してしまいました。全校生徒の見ている前で救急車で運ばれるという恥ずかしい思いをしました。それが今では懐かしい思い出です。そして、生涯つき合える友人と出会えたのも高校時代でした。泉鳥取の先生方には、勉強が嫌いで、全くできなかった自分に丁寧に教えていただきました。学ぶおもしろさを高校の3年間で知ることができたのは、自分にとって大きな宝だったと思います。

現在、大阪市の小学校で教師をしています。2年生のかわいい子ども達と大変ながらも楽しく過ごしています。毎日が目まぐるしく過ぎていきます。在校生の皆さんは、毎日を大切に、何でも挑戦し、学生の頃にしかできない多くの経験をしてほしいと思っています。そして、お世話になった先生方にこの場をかりて心から感謝したいと思います。

プロフィール

楠原 博文（11期生）

在校中は軟式テニス部、漫画研究部に所属。希代の努力家であった。山梨県立都留文化大学を経て子供の頃からの夢であった小学校教諭に。現在、大阪市立南小学校勤務。



明るくて親しみやすいのがいい所

中谷 剛



創立20周年おめでとうございます。

卒業してから早くも5年が過ぎ、高校時代の思い出も少しずつ薄れてしまいそうなぐらいです。というのも卒業後すぐ仕事の関係で成田に4年余居住していたのでもちろん周りは知らない人ばかりで高校時代の事を一緒に話し合える同級生もいませんでした。

こんな私ではありますが12期生として泉鳥取高校生として過ごした3年間の記憶をひもといていこうと思います。

昭和62年4月に入学した私が最初に感じたのは「生徒数が多いなあ」それもそのはず我々の世代は俗に言う“団塊ジュニア”なのですから。多いゆえに個性豊かな人ばかりで（先生も含めて）まさに十人十色とはこういうことですね。とにかく明るくて親しみやすいのが泉鳥のいい所だと思います。

私が3年間吹奏楽部に在籍していた時の事を少

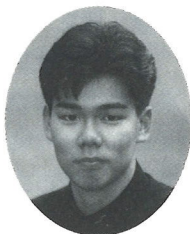
しばかり紹介します。私はトランペットを吹きたくて入部したのですが、未経験なために随分苦労しました。でも優しい先輩達にご指導していただき立派に演奏できるまでになりました。定期演奏会というビックイベントも開催できて本当に充実した3年間だったと思います。楽器を演奏する楽しさおもしろさを教えてくれたのは、泉鳥取高校吹奏楽部だったのです。今は休部状態と聞き大変残念です。いつかまたあの楽器の音が構内に響きわたる時が来たらいいなと願います。

現在、私は関西国際空港でJAL系の飛行機に荷物を積載する業務についています。KIXからははるかに泉鳥が望めます。今年からは会社にも泉鳥の後輩も入ってきました。

最後に私は泉鳥に入学して本当によかったと思います。クラブの先輩達や同級生は元気でしょうか。また逢ってみたいものです。

プロフィール

中谷 剛（12期生）



※顔写真は卒業時のものを使用

吹奏楽部に在籍、2年の時部長を務める。トランペットおよびパーカッションを担当。天性の明るさでムードメーカーとしてクラスでもクラブでも重要な存在であった。卒業後、関西空港グランドサービス㈱（KGS）に入社、現在は日本航空（JAL）機に貨物を積み込む際のロードマスター業務を行っている。

20周年によせて

◆
森口 祐子



私はこの4月から新入社員として新しいスタートを切りました。我が母校の泉鳥取高校を卒業してから早いものでもう5年目になります。

高校時代のことを思い出すと一言では語れませんが、中でも思い出深いのは3年間やりとおした生徒自治会活動です。大きな事は出来ませんでしたが、ささやかながらも頑張りました。文化祭での屋台（＝単品の食品販売：編集注）の実現、食堂のゴミ問題のキャンペーンなどいろいろな事を通して泣いたり笑ったりしながら「苦しい時にも乗り越えてゆく力」を少しづつ学んでいきました。忘れてならない事は一人で乗り越えてきたのではなく、たくさんの仲間を支えられて乗り越えられたという事です。また先生方にもたいへんお世話

になりました。夜遅くまで作業をしていた私達につき合ってくださいたり、くじけそうになると必ず励ましてくださいました。いろんな人に助けられて「逃げ出さずやり抜く」というこの時にできた土台は、今にも大きく役立っていると思います。

まだ駆け出しの社会人でこれからですが、くじけそうな時は我が母校での思い出を胸に頑張りたいと思います。

最後になりましたが、創立20周年、心からお祝い申し上げます。

これからも泉鳥取高校がたくさんの夢と希望を生み出す学校であり続けますように願いながら終わりとさせていただきます。

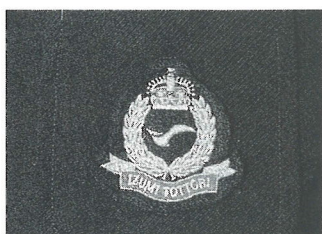
プロフィール

森口 祐子（13期生）

在校中は、何事にも熱心に取り組む頑張り屋だった。吹奏楽部に在籍する傍ら、生徒自治会活動にも積極的に参加。卒業と同時に大手前女子大学文学部史学科に進学、民族学を専攻する。平成7年無事に卒業して関西空港グランドサービス㈱に入社。偶然にも吹奏楽部の先輩である中谷剛君と共に働くこととなった。



※顔写真は卒業時のものを使用



青春謳歌

— クラブ活動 —

男子バレーボール部

男子バレー部を引き受けて3年になりますが、以前、顧問をされていた故長谷川先生には前任校の折からお世話になり、元気なイズトリのバレー部というイメージを引き継ぎ頑張るつもりでした。しかし、去年、3年生が引退後、2年3名、3年2名の計5名という状態になり、練習だけは早朝、放課後とやってきましたのですが、総合的な練習が来ず、公式戦では、他のクラブから1名応援を得て出場しましたが、すべて1回戦敗退という結果でした。少数ながらも頑張っている生徒達には勝利を味あわせたいものです。そして今年、新入生が7名入り、新2・3年も今年は勝利をと現在頑張っています。

男子バスケットボール部

9年前、本校へ着任した時は2年生4人のチームだった。しかし新入生数人と、さらに上級生からの入部があり、1年後には公式戦初勝利をあげた。又、全国大会出場チームに対し、80点という高得点をあげることができた。この最初の1年はほんとうに印象深く残っている。やればできるという事を生徒達は実感したに違いない。

その後、再び部員が減り、3～4人で練習した時期もあったが、最近では部員数も増え、今年は32名にもなった。部員数の増加により、公式戦も勝てるようになり、昨年は大阪府下南地区ベスト8と9学区大会3位という成績を残せた。これで満足してはいけませんが、はじめの3～4年を思えばすばらしい前進である。

チームに対しては毎年同じ事を言ってきた。去年のチームよりも良いチームになろう。態度、チームワーク等、すべての面において誇りの持てるチームになろうと言ってきた。OBもクラブチームでがんばっている。これからもさらに良いチームを目指して、がんばってくれると信じている。

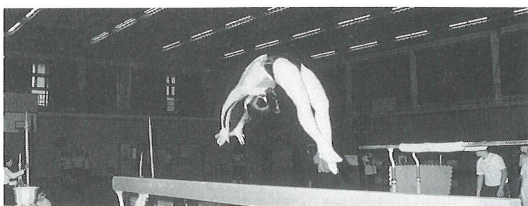
女子バレーボール部

開校後2年目で部外優勝し、それ以後54年春には1部1位となり、58年秋まで1部にあった。その間、2度の近畿大会（京都・大阪）に出場するなど、大阪府内の大会で長年にわたりベスト8ベスト16などの好成績をおさめてきたが、その後、成績はあまりふるわなくなり、現在は4部をなかなか脱せないでいる。昨年（1994年）は部員の人数も十分でなく、試合参加の方もままならなかったが、本年度（1995年）は1年生の新入部員が3名入部し、今後の活動に期待がもてる。

器械体操部

〔目標と歴史〕高校生として学業に、部活動に根気強く取り組み、全力を尽くすことを目標にし、日々、努力を重ねてきた。昭和56年度より高体連の大会に出場し、60年度には50名の部員を数えた。その後、部員数の減少にも、めげず現在は1名となったが各大会に出場し、活躍している。その間、他校との合同練習や合同合宿なども重ね、高体連の大会でも上位入賞を続け、府立校大会でも男女優勝を果たした。また、59年度には、個人で近畿大会出場、中国上海市への派遣選手に選考された。卒業生も百名を超えた。

〔歴代顧問〕岸本章嗣、竹中 毅、貝谷安宏、中筋典宏、梅田宏子、濱本泰治、谷口純造



女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は、初年度に創部され当時の顧問や部員達の苦労や努力によって、土台が築き上げられ、現在に至っているのですが、近年、運動部に入る生徒が少なく、入部しても頑張りきれずに退部してしまう生徒も多く、毎年部員の確保に四苦八苦しているのが現状です。

部員不足で試合も満足にできない程、低迷した時期もあったようですが、今年は新入生が10名入部し「活気あるクラブ」となっています。

今年度、創部20周年を迎える中で、土台作りに努力された先輩達に安心してもらえるように、又気軽に学校に立ち寄ってもらえるようなクラブに今後とも、部員・顧問共々より一層頑張っていきたいと思っています。

バドミントン部

開校と同時に創部され、4年目で漸く合宿をすることができた。滋賀県の近江希望が丘での合宿は平成3年まで続いた。

年により部員数の増減はあったが、ある学年で少ないと、他の学年がそれを補うなりして続いた。

10周年以降については、11期生女子の寺浦・松岡や、15期生男子の百歩・戸田・阪上・藤中・湯川・三浦らの代が、阪南市民大会で優勝、公式戦個人の部で4回戦進出するなど善戦した。

時に潮が満ちるように隆盛となったり、時に潮が引くように細々と運営を営まれることもあったが、命脈が途絶えることはなかった。

OBの人達、顧問団、そして現役の生徒諸君の熱意によるところが大きいと思う。20年の時代を越えてきたクラブとして、今後ますますの発展を願ってやまない。現在、部員は女子のみであるが、より上位入賞を目指して顧問共々コート内練習のみならず、ランニング及びウエイトトレーニングも取り入れた日々の練習に励んでいる。

卓球部

卓球部は、最近男子部員のみとなり細々と続いて来たが、今年はレギュラー選手として、2年生3名1年生1名の計4名がそろった。この6月10日の団体戦がたのしみである。5月3日の国体一次予戦では4名中2名が3回戦まで勝ち進んだ。また、5月7日の大阪高校選手権シングルスでは3名が2回戦まで勝ち進み、6月3日の同ダブルスでは2組参加し2組とも2回戦まで勝ち進んだ。これからは練習方法を研究し、この夏休みのいくつかの試合には大きな成果を上げるように頑張っていきたい。



柔道部

5～6年前までは、部員数も多く朝練習、対外試合、あるいは大阪府の強化選手を送り出したりと活発だった柔道部もここ3～4年は部員数も少なくなり活動状況もさみしいものとなっていました。ところが、平成6年4月入学した19期生の諸君の中に柔道部に入って頑張っていきたいという生徒が6名おり、20期生の1年生部員4名を加えた10名で日々練習にはげんでいます。

先輩がおらず、また柔道経験のある指導者もない状況で、あまり良好な環境とは言えませんが、現在10名の部員達は、まじめに練習にはげんでいます。今後、後輩等の入部をすすめ、対外試合などでできればと考えています。

サッカー部

年度	顧問	春季大会	秋季大会	冬季大会
1995	加藤 金子 小嶋	2 回戦 0 - 4 大手前		
1994	加藤 金子	1 回戦 0 - 2 東住吉工	1 回戦 2 - 4 浪速工	1 回戦 1 - 7 箕面東
1993	加藤 松谷	1 回戦 1 - 2 旭	2 回戦 0 - 8 大阪	2 回戦 0 - 8 島本
1992	加藤 松谷	1 回戦 0 - 2 摂陵	1 回戦 0 - 4 守口	2 回戦 0 - 4 河南
1991	加藤 松谷	1 回戦 0 - 2 此花	1 回戦 0 - 4 登美丘	1 回戦 不戦敗 桃山
1990	柿花 松谷	1 回戦 1 - 2 池島	1 回戦 0 - 9 長野北	2 回戦 0 - 4 貝塚南
1989	柿花 松谷	3 回戦 1 - 7 摂津	1 回戦 0 - 2 堺工	2 回戦 1 - 5 清教
1988	柿花 上田	1 回戦 0 - 1 成器	1 回戦 0 - 6 阪南	1 回戦 1 - 10 堺工
1987	柿花 山本	1 回戦 1 - 4 堺西	2 回戦 不戦敗 堺市工	4 回戦 0 - 5 泉北
1986	柿花 名倉	2 回戦 1 - 3 大塚	2 回戦 0 - 2 狭山	2 回戦 1 - 2 東百舌鳥
1985	柿花 名倉	1 回戦 1 - 2 柏原	1 回戦 5 - 6 東百舌鳥	3 回戦 0 - 3 泉北

ソフトテニス部

平成 6 年より「軟式庭球」から「ソフトテニス」に正式名もかわり、大幅にルール改正も行われる中、わが校ソフトテニス部は女子部員 3 名ながら、毎日熱心に練習している。現在部員は全員 1 年生なので、来年からの活躍を期待している。

硬式テニス部

コートが一面なので男女隔日に練習日を設定しています。男子の場合 8 人中 4 人が中学で軟式テニスを経験しているのでかなりの力を持っています。授業が終わると校門を飛び出し周回コースを思い切り走ってます。顧問もたまには一緒に走るのがですがすぐに息切れを起こし引き返す次第です。体力と運動力に恵まれた彼らですが、まだプレーには雑で荒い面が多く他校との練習試合でも苦戦しています。またテニスは技術とともに精神面での強さがかなり要求されます。彼らの日常生活でもテニスで学んだ我慢強さなどが徐々に生かされてきているようです。来年までには安定性に磨きをかけ高校総体ブロック予選は突破の予定です。顧問以上に生徒が燃えているので頼もしい限りです。女子の部員は 14 名います。まだ基礎的な練習をしている段階で他校との練習試合をこなすまでにはなっていません。しかし今年は飛躍する予定です。

水泳部

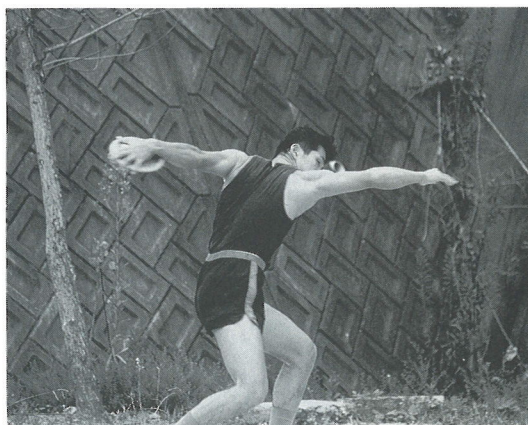
5 月の連休前後にいつもプール掃除をします。まだ肌寒いプールで裸足で冷たい水に浸りながら、今年は水泳部員 2 人にフィールドワーク部から 5 ～ 6 名の助っ人で行いました。

去年からの汚れをゴシゴシとモップで擦り落とします。1 年分の汚れを流し終えるのに丸 1 日かかりました。

今度は水を張るのに丸 3 日かかります。朝早くに水道のバルブを開け夕方バルブを閉めて 3 日後、やっとプールに五月晴の空を写した真っ青な水が満杯になります。

こうなると早く泳ぎたくなるのが人情、水温 19℃、泳ぐにはまだまだ冷たいけど思い切って入ります。5 分も入っているとブルブル震えてきます。みんな真っ黒に日焼けする夏が早く来るように待ち遠しいのがこの頃です。

陸上競技部



文化 部

吹奏楽部

部員3名（トランペット2人、トロンボーン1人）でスタートした吹奏楽部は、草創期を経て昭和56年には大阪府吹奏楽コンクール南地区大会に参加するようになり、以後、昭和61年には銀賞を受賞するまでに成長した。翌62年には創部以来の悲願であった定期演奏会を、岸和田市民会館で催し、大成功を収めた。この現役、OBが一丸となって取り組んだ定期演奏会は、平成2年まで連続4回開催することができた。その間、会場は岸和田市民会館から、真新しい阪南市文化会館（サラダホール）へと移され、地元の高등학교の定演として親しみを持って迎えられた。その後、部員の減少に伴って活動はしだいに低調になっていったが、現在2年生部員5人で頑張っている。以前のような華々しい活動は無理だが、少しずつ部員を増やし「明るく楽しいクラブ」という伝統を絶やさないよう努力していきたいと思っています。

華道部

華道部は、本校創立時からあるクラブで、講師の常盤木先生には創立以来ずっとお世話になっています。卒業したあとも、ずっと個人的に華道を習っている部員も多いようです。

部員数はだいたい10人内外で、毎週のおけいこや文化祭の発表を中心とした地道な活動を続けています。現在は8人いますが、おけいこを休んだりすることもめったになく、まじめにがんばっています。多くの先輩達と同じように、華道の基礎的な実力を身につけ、お免状をいただいて本校を巣立っていくことを期待しています。

茶道部

20周年という節目の時を迎えて茶道部の歴史を振り返ると、創設以来心血を注いでご指導下さった山田宗耕先生がご逝去なさるなど起伏の多い年月でしたが、その中心にあるものは全く変わらず「一碗の茶を通じて、和を尊び、互いを思いやる心を育む」という精神は今も茶道部に立派に息づいていると感じられます。（このことをご報告して、先生のご冥福を祈りたいと思います）この間部員数は増減（この数年は残念ながら減ですが）しながらも、折々の行事——お茶会を楽しみながら地道な活動を続けてきました。現在は、講師の井上宗賀先生、顧問の安藤、亀田を中心に生徒4名という小世帯ながら、それ故に和気藹々と活動しています。それでも、4名の部員に歴代の先輩達の残っていた「自主運営」の気風がしっかり伝えられているのをすばらしいことだと思います。お点前を学ぶという日々の地味な練習を通じて、立居振舞だけでなく、相手や周囲に対する心配りを身につけていく部員達の成長ぶりに、茶道部々活動のすばらしさを実感しています。

漫画研究部



漫画研究部では、毎年、部員の描いたイラストを展示する「展示会」や、文化祭に部誌、下じき等を製作、販売しています。作品のレベルは年々あがっていて、とても良質な物を作れるようになっていきます。その他には、4月に新入生歓迎会や夏には合宿、学校の行事に関するイラストなども描いています。

写真部

わが写真部は、本校創立直後に発足した由緒あるクラブである。

活動内容は、モノクローム写真の撮影・現像・焼き付け・修正を一括して行うことにより、芸術としての写真を追求している。また、近年はやりのAE・AF（全自動露出・全自動焦点）を廃し、マニュアル撮影の技術を育成している。

行事としてはゴールデンウィークの撮影会、7月夏期休暇中の撮影合宿（1泊2日）、1年間の活動成果を発表する文化祭展示が主な活動である。

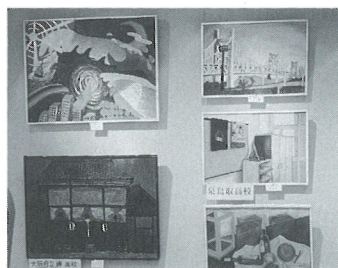
平成6年度より始まった全国高等学校写真選手権大会に参加、日頃発表の場の少ない写真部としては大きな前進であった。

文化祭展示としては、平成5年度より書道教室において、生徒及び顧問の作品の通常展示と、1年間研究した成果を発表する「特別展示」を行っている。特別展示の内容は「被写界深度について」（平成5年度）、「今甦る往年の名機」（平成6年度）というテーマで展示を行った。

時代遅れの技術にしがみついている、という批判を敢えて受ける覚悟で、写真部はひたすら「モノクロームの叙情性」にこだわりつづけている。

美術部

夏休みに天王寺の市立美術館において開催される全大阪高校美術・工芸展、秋の本校文化祭、そして2月に行われる第9学区ブロック展を発表の3本柱として活動しています。例年男性部員が少ないのが残念です。部員の数には多くはありませんが、地道に粘り強く頑張っていきたいです。



フィールドワーク部

もともとフィールドワーク部とは、近くの名所旧跡などを訪れて実地調査（＝フィールドワーク）するクラブでした。（前身は地歴部です）でも現在ではそのおかげはカケラもありません。創設当時の先輩の中にはお嘆きされる方もおられるかも…、誠に申し訳ございません。

じゃあ今はどうなっているかというと、フィールドワークを野外活動と勝手に訳し、昨今のアウトドアブームの風のにり、テントをかつぎ、シングルストーブをザックにしればせ、各地のキャンプ場へ出沒するという地歴のちの字もないクラブになり下がっております。

ちなみに昨年度の合宿は、渡瀬温泉キャンプ場にテントをはり、川湯の川床に露天風呂をはり、翌日は白浜の臨海浦で、魚をつくというありさま。我がクラブに未来はあるのでしょうか。

軽音楽部

軽音楽部は1986年に同好会として発足し、音楽（ロック）好きの集まる楽しいクラブとして活動を続けてきた。なかなか校外で演奏を行う機会に恵まれず、文化祭での演奏のみが発表の場であった。そのため部員数の変動がはげしかったのも事実である。

3年前より、さつき園（阪南市）において、演奏を行う機会を得た。今後、このような機会をより多く得ていく中で、より充実したクラブ活動を行えることを望んでいる。

部落問題研究部

部員が2人となり、1人となり、もはやこれまでかと思えば、新たに4名の新入部員を迎え、不思議に部落研の灯は消えずに続いています。

最近の取り組みでがんばったのは、93年度の文化祭。「討論会」をやりました。討論とは言っても、OBや先生方から「こんな風に取り組んだらどうや」と提案をいただいただけでしたが、しばらくは活動がとまっていた部落研の中で、たった1人の18期生は本当に頑張っています。解放運動全体が新しい方向を模索しているこの時代、部落研の活動もともすれば立ちどまってしまうようなこともあります。逆に、もっと深まりや広がり求めていけるのではないかと、個性派ぞろいの1・2年生と語り合う中で感じています。

情報処理同好会

平成6年に同好会として発足した。当初は旧式のFM-77を使用していたが、BASICのプロプログラミング以外使用することができず、日本語ワープロを使いたいとの希望があったので、情報処理教室にあるFMR-50を使用できるようにした。毎週火曜日と金曜日の放課後に活動している。

生徒達は初め、コンピュータの操作を覚えるのに精一杯だったが、活動が続けるうちに慣れてきた。そろそろプログラミングによるデモンストレーションやワープロを活用した研究発表をさせてみたいと思っている。

まだ同好会の段階だが、会員は1・3年生合わせて15人ほどいるので、一日も早くクラブに昇格できるように活動実績を上げ、生徒達の励みにさせたいと思っている。

その他のクラブ

剣道部、ラグビー部、バトン部、演劇部、書道部、報道部、家庭同好会

汗と涙が輝いたこの瞬間（クラブ戦績）

昭和52年（1977）

陸上競技部 近畿大会 広田智和子 槍投げ出場
近畿大会 池田裕子 高跳び 4位

昭和53年（1978）

陸上競技部 近畿選手権大会 池田裕子 高跳び

昭和54年（1979）

女子バレーボール部 大阪高校総体 ベスト8
近畿高校総体 出場

陸上競技部 近畿ジュニア選手権 中田広美
砲丸 出場

昭和55年（1980）

女子バレーボール部 府立高校大会 準優勝
大阪高校総体 ベスト16
(近畿大会辞退)

昭和56年（1981）

女子バレーボール部 大阪高校総体 ベスト8
近畿高校総体 出場
府立高校大会 準優勝

陸上競技部 大阪選手権大会 中田広美
7種競技 優勝
近畿選手権大会 中田広美
7種競技 3位
大阪ジュニア大会 安宮夏江
槍投げ 3位
近畿ジュニア選手権 安宮夏江
槍投げ 3位

昭和57年（1982）

男子バレーボール部 近畿高校総体 出場
女子バレーボール部 大阪高校総体ベスト4
近畿大会出場

陸上競技部 大阪高校総体 安宮夏江
槍投げ 4位

女子軟式テニス部 大阪中央大会 ベスト8

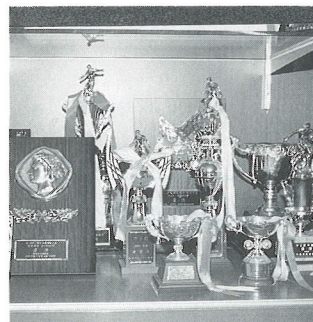
器械体操部 大阪高校総体
男子1部 団体総合4位
春季高校体育大会
男子1部 団体総合8位
大阪大会新人戦 芝野隆吉 吊輪3位

昭和58年（1983）

陸上競技部 大阪高校総体 川崎小夜子
槍投げ 優勝
近畿高校総体 川崎小夜子
槍投げ 2位

器械体操部 春季高校体育大会
男子1部 団体総合6位
野上誠一 マット 2位
大阪高校総体
男子1部 団体総合4位
鈴木将生 床 優勝

放送部 NHK杯全国放送コンテスト
大阪大会 野口恵子 4位
全国大会出場



全国高校総合体育大会 川植宗治
円盤投げ 優勝 (51.0m)
器械体操部 春季高校体育大会
男子1部 団体総合7位
女子1部 団体総合7位
大阪高校総体
男子2部 団体総合6位
府立高校大会 男子団体総合優勝
女子団体総合優勝

平成元年 (1989)

女子バレーボール部 大阪秋季部別大会 1部2位
器械体操部 春季高校体育大会
男子1部 団体総合11位
大阪高校総体
男子1部 団体総合8位
新人大会 男子1部 団体総合7位
府立高校大会 男子団体総合2位
女子団体総合3位

平成2年 (1990)

器械体操部 春季高校体育大会
男子1部 団体総合8位
大阪高校総体
男子1部 団体総合5位
新人大会 男子1部 団体総合8位
府立高校大会 男子 団体総合2位

平成3年 (1991)

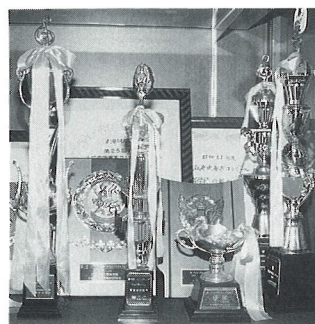
陸上競技部 大阪高校駅伝 女子の部 10位
(三代・浪越・山田・小谷・山本)
器械体操部 春季高校体育大会
男子1部 団体総合8位
大阪高校総体
男子1部 団体総合6位
府立高校大会 男子団体総合5位
女子団体総合7位

平成4年 (1992)

水泳部 大阪高校総体 南 恵子
100m・200m平泳ぎ 近畿大会出場
陸上競技部 大阪高校総体 八藤雅志
400m H 2位 近畿大会出場

平成5年 (1993)

陸上競技部 大阪選手権 八藤雅志
400m H 6位 近畿選手権出場
大阪高校総体
仲谷浩明 800m 8位
古川 武 5000m 8位
森美奈子 3000m 10位
八校対抗 総合3位
仲谷浩明 800m 優勝
古川 武 5000m 優勝
八藤雅志 400m H 2位
1600m R 3位



泉鳥教育20年

— 校務分掌の取り組み —

生活指導部

20周年を迎えて思う事

生活指導部の基本方針・達成目標は生徒達の基本的生活習慣の確立です。これを3年間で達成させる為に、遅刻指導、早朝登校指導、登下校指導、安全教育、制服指導、頭髮指導、チェックカード、祭りの事後指導、自転車指導、教育相談、奨学金の奨励などの指導を日々行っています。結果創立10周年あたりから懲戒件数は年々減少し、ある程度の成果を得る事ができました。その理由は生徒数の減少という事もありますが、大きく3つの要因が考えられます。その1つは、職員間の指導の統一性と一貫性です。教師により指導の在り方、考え方、生徒へ向かう姿勢がばらばらであったり、又生徒と迎合する教師が1人でもあったりするとどの指導も一定の成果は得られず逆にそれが生徒へ悪い影響を与え、保護者へも悪い影響を与えるものです。2つ目の要因は教師側の指導を受け入れることのできる生徒達にあります。1度や2度の指導では理解できなくとも3度、4度とたび重なると教師側の姿勢を敏感に感じとり生活をあらためようとする『打てば響く』多くの生徒がいます。又個々の生徒に対する指導の在り方というのを他の生徒はしっかり見ており、個々の指導は集団の指導につながっています。3つ目の要因は保護者のみなさまの協力です。生徒指導部の呼び出しには100%来校していただいております。又成績懇談、進路説明会へも数多くの出席があります。こういった保護者の方々の姿勢が何よりも生徒達にやる気を起こさせます。以上の3つの大きな要因がうまくかみ合い何とか平靜に20周年を迎えることができました。

今後、さらなる職員間の意志統一をはかり、2度、3度『打てば響く』生徒を信じ、保護者のみなさまにもご協力いただき30周年、50周年を目指し前進してゆきたいと思います。



進路指導部

20年のあゆみ

一人一人の個性と適性を考慮しつつ、豊かな人生を切り拓いていくための基礎となる確かな進路観を持つ生徒を育てる。そのための十分な学力を身につけさせるとともに、進路指導を通して人生に対する積極的な態度を培い、あわせて物事を深く理解し、主体的に判断し対応する力、創造する力の伸張をはかる方針でこの20年間の進路指導がなされてきました。

1976年の学校創立とともに、進路指導部が発足し、78年度に進路保証の充実をはかるため進路指導委員会ができ、現在に至る就職についての「統一応募書類」の主旨理解や学校推薦の基準・手順に関する原則を確認し、全教員による企業訪問を実施し、求人開拓を行った。83年度から第3学年において進学・就職の希望による進路別クラス編成を実施し、進路別指導内容の充実を図った。92年度に求人票の整理を中心として就職システムを、94年度には進学関係のデータベース化を実施した。95年度には進学・就職希望による進路別クラス編成を第2学年にも行い、就職クラスには『文書処理』の授業を行い就職に備えるとともに生徒の意欲高揚を促している。

95年度の現在、代表・進学・就職渉外のもと、計12名のメンバーで学年団とともに進学・就職に関わり、別表に示す年間行事をこなしている。第1・2学年では、毎学期1回の進路ホームルームと実力考査、1・2学期中間考査後の学級懇談週間を中心として、生徒の進路意識向上を促し、2学期における進路選択説明会に選択を迫っている。第3学年では、9月の就職試験を山場とする就職模擬試験（4回）・就職模擬面接（3回）等の就職指導、10～12月の推薦入試を山場とする進学模擬試験（6回）・進学説明会・進学講習等の進学指導を実施している。また、全学年にわたって専門学校や看護希望者への説明会を年2回実施している。

本校のこのような進路指導は、18才人口が減少する今後どのような方向に進めるべきか種々の意見があるところであるが、生徒の希望を優先的に認めてきたこれまでの方向は今後とも継承されるべきであると思われる。これまでに就職・短期大学・専門学校と希望する生徒の大半は、その希望通りに進路決定している。しかし、大学進学希望者に限っては、毎年5%前後の生徒が大学進学を希望するにも関わらず希望実現するものは1%にも満たないのが、ここ数年の状況である。本校の進路指導に関して今後の課題として掲げるべきものとして、進学（特に大学）希望者に対する指導の充実とその進路保障を挙げたい。これを向かう30周年、40周年の目標の一つとして進み、地域発展に尽くせれば幸いと思う。



卒業生（１～１７期）の進路状況

入学 年度	期生	入 学 時 クラス定員	入学者数	卒業者数
1976	1	45×10	450	419
1977	2	46×12	552	503
1978	3	47×12	564	507
1979	4	47×10	470	430
1980	5	47×11	516	475
1981	6	47×10	469	442
1982	7	47× 9	422	397
1983	8	47×12	564	518
1984	9	47×12	564	499
1985	10	47×12	564	517
1986	11	48×12	576	527
1987	12	48×12	575	488
1988	13	48×12	575	461
1989	14	48×11	527	429
1990	15	46×11	506	418
1991	16	45× 9	405	334
1992	17	43× 9	387	312
1993	18	40×10	400	
1994	19	40× 9	360	
1995	20	40× 8	321	

大学	短大	専門学校	就 職	その他
10.5	8.3	17.6	47.7	15.7
8.7		14.1	62.0	3.1
3.9	6.3	19.3	65.2	5.1
3.9	8.1	17.2	67.9	2.7
5.4	5.6	10.5	68.6	9.6
3.1	3.8	20.1	64.4	8.3
2.5	5.7	16.3	55.9	19.3
1.9	6.1	14.8	62.5	14.4
2.6	4.2	16.0	60.3	16.8
2.5	5.0	14.7	54.7	23.0
1.1	5.8	19.5	58.2	15.1
1.4	5.9	19.4	58.8	14.3
0.6	5.6	22.3	56.6	14.7
0.2	3.9	24.2	60.6	10.9
0.4	6.2	18.1	59.5	15.5
0	5.9	22.1	48.2	23.6
0.6	8.3	17.9	56.4	16.6

数字は%

年間スケジュール

(H 7 年度 3 学年)

月日 (曜日)	内 容
4 月 12 日 (水)	第 2 回進学・就職模擬試験 進学講習説明会
13 日 (木)	就職ガイダンス・進路希望調査 (～ 4 / 18) 進学講習開始
15 日 (土)	進学ガイダンス・進路希望調査 (L H R)
25 日 (火)	保護者向け進学説明会 (大学・短大・専門学校)
27 日 (木)	第 1 回就職模擬面接 (～ 5 / 1)
5 月 9 日 (火)	職業適性検査 (クレペリン)
15 日 (月)	看護希望者集会 (放課後)
19 日 (金)	3 年進路打合せ会 (就職)
25 日 (木)	企業訪問 (～ 5 / 25 : 中間考査期間中)
31 日 (水)	専門学校説明会
6 月 1 日 (木)	企業訪問報告書提出締切
8 日 (木)	進路ホームルーム (履歴書の書き方)
9 日 (金)	卒業生報告会
12 日 (月)	第 3 回進学・就職模擬試験
22 日 (木)	学級懇談週間 (～ 6 / 17)
23 日 (金)	同和進路ホームルーム (「近畿統一応募用紙」について)
下旬～	第 2 回就職模擬面接 (～ 6 / 28)
7 月 1 日 (土)	大学・短大入試説明会開始 <10月上旬まで随時>
20 日 (木)	求人票受付開始
31 日 (月)	進路説明会 進路相談 保護者向け就職説明会
8 月 1 日 (火)	就職＝会社選択のために (求人一覧表配布第 1 回)
	進学＝夏期講習・夏休みの過ごし方 他
	3 年登校日 第 4 回進学・就職模擬試験
	就職生クラス登校日 (～ 8 / 4)
7 日 (月)	求人一覧表配布 (第 2 回) 第 3 回就職模擬面接
17 日 (木)	進路相談 就職希望カード (下書き) 提出
18 日 (金)	就職相談日 (～ 8 / 9)
19 日 (土)	就職生登校日 縁故受付締切日 求人一覧表配布 (第 3 回)
22 日 (火)	就職生登校日 就職希望カード提出 (生徒→担任)
23 日 (水)	就職希望一覧表提出 (担任→進路)
24 日 (木)	第 1 回事前調整 (就職相談)
30 日 (水)	第 1 回事前調整 (就職相談) <第 2 回 : 25 日午前>
9 月 5 日 (火)	第 1 回校内選考会議 <第 2 回 : 25 日午後>
7 日 (木)	応募書類袋詰め
12 日 (火)	応募書類発送
16 日 (土)	第 5 回進学・就職模擬試験 進路説明会
10 月 12 日 (木)	3 年進路打合せ会 (進学)
	進学 : 進路相談 進学模擬面接 (～ 9 / 19)
	就職 : 就職試験解禁 受験報告 (～ 9 / 19)
	進路説明会 進学模擬試験
	進学＝入試直前の諸注意 他と模擬試験
	就職＝内定後の心得 他
4・7・9 月	業者テスト実施予定
11 月上旬～	入学試験開始

- 〔備考〕・進路意識の高揚を目指し、「進路だより」を発行する。
- ・進路意識の高揚のため、適宜「業者テスト」を実施。
 - ・基礎学力の向上をはかり、英・国・数の進学講習を実施。
 - ・准看希望者の進路保障として、准看講習を実施。

保健部

生徒保健委員会の研究活動

本校の生徒保健委員会は、生徒達の自主活動の一環として、高校生活における種々の問題を取りあげ、研究を行っている。その研究の成果を、昭和54年度、56年度、58年度、63年度、平成4年度、5年度の6回、大阪府立高等学校保健研究発表大会において発表をした。この大会に参加する高校は毎年数校で、特に第9学区からの参加はあまりないが、その中で本校の生徒保健委員会はよく健闘していると思う。また、内容面でも、高校生らしい身近な問題を、さまざまな角度からよく調べており、わかりやすいと毎回高い評価をいただいている。

ここでは、最近10年間に行った3回の発表について、簡単にご紹介したいと思う。

○昭和63年度

「性・喫煙・飲酒についてのアンケート調査」

全校生に対してアンケート調査を行って性や喫煙・飲酒に対する意識およびその実態を研究した。また数年前に実施した同じようなアンケートの結果とも比較して、どういうふうに変化しているかをも調べた。

その結果、性については、関心をもっている生徒が多いがその知識は「友人・先輩から」得るとした者がもっとも多く、正しい知識を持っていないことが心配される。喫煙・飲酒については、かなりの高率（45%・70%）で経験しており、しかもはじめる時期が前回の調査と比べて低年齢化（小学生のときが30～40%）している。保護者の態度も「怒って注意する」が非常に減ってきており、逆に飲酒をすすめている保護者が大変多い。また祭がさかんな土地柄を反映して、祭をきっかけに喫煙・飲酒の習慣に入る者が相当数いる。ただ、数年前に比べ「禁煙したい」という生徒は増加傾向にあることがわかった点は良かった。

この回の発表では、大会への参加回数が多いということで特別に表彰された。

○平成4年度 「視力と私たちの生活」

視力が低いと、実際の日常生活にどういう影響をおよぼすか、ということを具体的に知るために、自転車で走行して標識がはっきり見えた地点で停止するという実験をした。実験は本校玄関前、通路にて生徒44名、教員17名の協力で、和気あいあいとしたふんいきの中で行われた。実験データをグラフ化すると、やはり視力と標識までの停止距離の間には明らかに相関関係があることがわかった。この結果から、視力が低い者はきちんと矯正することによって、日常生活における安全性を高めることができるということがよく理解できたと思う。

この回の研究は、本校の秋のPTA講演会の時にも発表を行った。また、この年度から生徒保健委員会としての文化祭への展示参加をはじめた。

○平成5年度 「泉鳥取高校生の食生活」

本校では1日の保健室来室者が40人をこえる。体調が悪くなる原因のひとつに食生活の乱れがあるのではないかと考え、このテーマにとりくんだ。はじめは「3食きちんと摂っているか」等のアンケートを行ったが、実態があまりはっきり見えてこない結果だったので、もっとつっこんだ調査をすることになった。

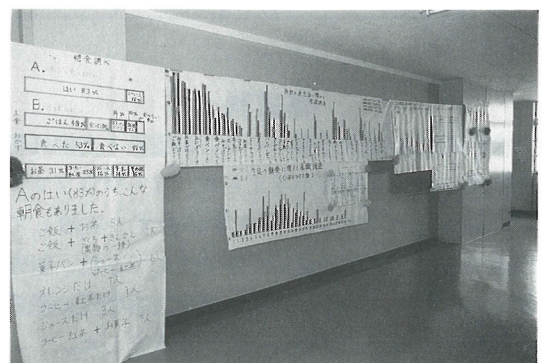
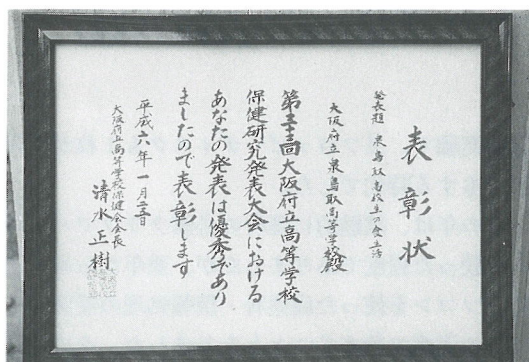
そこで、3日間にわたり飲食したものすべてを表に書き込んでもらうことになり、15人の生徒の協力を得た。その結果を検討しながら驚いたことには、バランスのとれた食生活をしている人は皆無とってよく、それぞれに多くの問題点をかかえていることがわかった。たとえば、朝食抜き、間食・夜食に偏る、外食やコンビニ食品・加工食品の多さ、タンパク質やビタミンなどの不足、塩分のとりすぎ、等々。「3日間一片の野菜も口にできなかった」「3日間毎日ラーメンを食べた」「ジュースを何本も飲んだ」「スナック菓子ばかり食べた」「お菓子しか食べてないのにちゃんと朝食を摂ったと思っている」というような、生徒

達の食生活の現実が、調査からうきばりになった。

飽食の時代にもかかわらず、本校生の栄養不足や栄養の偏りは相当深刻であるようだ。このような食生活をつづけていると体調不良、ひいては成人病予備軍といわれる状況におちいるのではと心配される。

この回から、職員会議の場でも研究の紹介・発表を行っている。またこの年度の研究は府立高校の代表に選ばれ、平成6年度大阪府学校保健研究大会（小中高の代表校大会）においてさらに内容を深めて（特に朝食に注目し、新しい調査を加えたうえで詳しく考察した）再度発表を行った。

生徒保健委員会では、研究活動の他に、校外清掃ボランティアをはじめ、色々のことにとりくんできた。しかし、全体として本校生は自分達の健康や環境のことなのに関心が薄いようで、委員会メンバーが啓発に努力をしても、なかなか成果が上がらないというのもまた現実である。生徒保健委員会の訴えたいことが少しずつでも理解されるよう今後とも着実な活動をつづけていきたいと思う。



教務部・商業科

新教育課程実施について

本校では平成6年度より新教育課程導入に伴い、2年生より類型によるクラス編成を行うこととなりました。A類型は、卒業後進学することに主眼を置き、英・数・国の中から1科目を選択履習、B類型は卒業後就職することに主眼を置き、「文書処理」を履習します。

本校では昭和60年度より1・3年対象に「情報処理Ⅰ」を開講してきましたが、生徒及び社会のニーズの高まりにより、2年時での「文書処理」の開講に踏み切りました。授業については、まだ始まったばかりですが、生徒には好評で、意欲的に取り組んでいます。

		単位数 0 5 10 15 20 25 30 (単位)													
1年	I	国語Ⅰ	日本史B	地理B	数学Ⅰ	化学ⅠB	地学ⅠA	英語Ⅰ	保健	体育	家庭	芸術Ⅰ	HRクラブ		
	II	国語Ⅰ	日本史B	地理B	数学Ⅰ	化学ⅠB	地学ⅠA	英語Ⅰ	保健	体育	家庭	芸術Ⅰ	HRクラブ		
2年	I	国語Ⅱ	日本史B	世界史B	数学Ⅱ	物理ⅠB	生物ⅠA	英語Ⅱ	コミュニケーション	保健	体育	家庭	芸術Ⅱ	選択	HRクラブ
	II	国語Ⅱ	日本史B	世界史B	数学Ⅱ	物理ⅠB	生物ⅠA	英語Ⅱ	コミュニケーション	保健	体育	家庭	芸術Ⅱ	選択	HRクラブ
3年	I	現代文	世界史B	現代社会B	数学B	理科(選択)	英語Ⅱ	英語演習	体育	選択1	選択2	HRクラブ			
	II	現代文	世界史B	現代社会B	数学B	理科(選択)	英語Ⅱ	英語演習	体育	選択1	選択2	HRクラブ			

(注：平成6年度入学生より実施)

商業科

今回20周年記念行事の一つに商業科・文書処理の授業に対する補助が与えられ、ワープロソフト一太郎jumpとプリンターを各40台ずつ寄贈して頂きました。ここに紙面を借りましてお礼、報告申し上げます。おかげさまで無事文書処理の授業を開講することができるようになりました。

商業科導入の経緯

本校の商業科の導入は、昭和60年の夏に初めて普通科の府立高校9校にパーソナルコンピューターが導入されたことに始まります。当時のパソコンは現在使用しているものと較べると、機能的はかなり劣るものではありませんでしたが、当時としては非

常に高価で、又フロッピーディスクも1枚が千円以上もする時代でした。

その年は、試験的に理科の必修クラブでパソコンを使った程度でありましたが、翌年から本格的にパソコンを使った商業科・情報処理の授業を3年生の選択で始めることとなりました。その当時の情報処理の教科書は金利計算や、在庫管理などすべて商業科の生徒を対象として作られたものばかりで、普通科の生徒が興味を持つような内容のものはありませんでした。

したがって、授業は毎時間毎にプリントを作り、そのプリントを完成させながら基本的なコンピュー

タープログラムの学習をしていくことにしました。このことは、教える側としては教材研究が非常に大変で、苦しいことではありますが、逆に教科書の枠に捕われることなく、パソコンという新しい道具を使って、今までとまったく違った学習の方法が考えられることとなりました。

我々授業担当者としては、情報処理の授業の目的を、パソコンやワープロといった新しいOA機器に対応できる力をつけさせることに置きました。少なくとも就職後に、それらの機械と対面した時に、畏れることなく機器を操作できるようにしたいと考えました。幸いにもすべてのコンピューター・ワープロのキー配列はほぼ同一ですので、1年間キーボードを操作することによって、キーの位置や基本的なキーの操作方法などをマスターすることを目的としたわけです。

また、卒業後もできるだけ生徒自身で考えたり、使用説明書を調べたりできる力がつくように、プリントを作ることを心がけました。

その当時は考えてもみなかったことですが、卒業生の報告でこのような情報処理の授業は、製造業についた生徒にも非常に役に立つことがわかりました。現在の旋盤などの製造機器は、その殆どがコンピューター内蔵であり、職人的な技術よりもコンピューターのプログラミングの能力が必要とされる時代となっていたのです。

現在の情報処理の授業は、生徒の興味を引きながらこのような社会の要求に答えることのできるように、何回かの試行錯誤を重ねながら、独自のプリントで行っています。

現在の授業の様子

情報処理の授業は、3年生の選択授業として3～4クラスの授業を行ってきましたが、希望者が多く選択調整の係の先生はその調整に毎年苦勞する状態が続いています。

授業中の生徒の態度も熱心で、休み時間中からコンピューターの学習を始めている生徒も多数います。2時間連続の授業の休み時間には、目の保護や気分転換の為に、できるだけコンピューターから離れるように指導していますが、なかなか手を放そうとしない生徒が多いため、今では生徒のブーイングにあいながらも、画面を強制的に消すような状態です。

ワープロの導入

平成6年度より始まった新課程では、2年生の選択授業で文書処理の導入が決定しました。本校の文書処理では、単にワープロを教えるだけでなく、ワープロを使って国語の学力をつけようという確認がされています。現在2年生の文書処理の授業は、選択で6クラスが開講されており、できればワープロ検定を受けるだけの力をつけさせたいと考えています。



図書部

本校図書館も20年の歳月とともに徐々に移り変わってきた。

毎年発行している「図書館報」も27号を数え、図書館内でも文化祭での「和綴本作り」をはじめ、読書会、映画会、朗読会、座談会、オリエンテーション、読書感想文コンクールなどさまざまな行事を行ってきた。図書館にひとりでも多くの生徒に来てもらいたいと始めた映画会は好評で、館内は常に満席状態であった。しかし、読書会等、ひとりの参加もない状態が続き、企画だおれに終わることもあった。現在まで続いている行事は数少ないが、これまで行ってきたさまざまな取り組みは、生徒達の良き思い出となっているだろう。

読書傾向については、中高生の読書離れ、活字離れが顕著であると、TVや新聞で報じられているが、本校でも図書館を利用している生徒は少ない。図書館離れをくい止め、図書館活性化のために、選書には生徒のリクエストなどを重視して、ニーズにあわせた資料選択を行っている。蔵書の中にまんがを入れることは賛否両論があるが、リクエストもあって、全国SLAの「まんが選定基準」を基に少しずつ取り入れている。生徒にとっ

ては、読書の楽しみにつながっているようである。そして、まんがから興味を文学書の読書へ、どのように向かわせることができるかということが、これからの本校図書館の課題の一つである。

蔵書冊数・貸出状況の推移

年度	蔵書冊数	年度	貸出冊数
S 60	7,581	S 60	465
61	8,854	61	1,118
62	10,957	62	1,118
63	11,971	63	872
H 元	13,018	H 元	1,125
2	13,732	2	1,145
3	14,378	3	845
4	15,115	4	748
5	15,725	5	957
6	16,406	6	897



図書館の
閲覧風景



同和教育推進委員会

「生きていく力」となる教育を この10年

創立10周年から、さらに10年。この10年間に泉鳥取高校は、教職員も生徒の気質も大きく変わりました。この間も、本校の同和教育の柱は、やはり本質的には、「非行」と「低学力」の克服がそのひとつであったと思います。

しかし「生徒が社会や家庭の中でつきつけられている生活の現実を見つめ、そこから問題解決の展望を見出ししていく」という基本的な視点を保ちつつ、個々の生徒へのかかわりを続けてきましたが、社会全体が激しく変容する中で、「現在の泉鳥生」の全体像をつかみ難い面がでてきた10年であったと思います。特に12年目の頃から、中途退学をする生徒の数が非常に増え、いよいよ生徒を、学校の中の姿だけではとらえきれなくなってきました。授業の工夫や家庭訪問などの取り組みを通じて、学校につながっていることができずに離れていってしまう生徒の数は信じられないほど増えました。

社会の変化とともに

このような現状を前にして、同和教育推進委員会では第一に生徒達の意識を知り、分析するために、89年度は「中退者に関する調査」を行いました。これは86年度から88年度までの3年間に中退した256名の生徒全員の、退学の動機・時期・退学後の生活など学校側で把握している面と、中退生へのアンケートの回答（回答率7.4%）を分析したものです。さらに翌90年度には、在校生に対して「生活実態アンケート」を行いました。この2度の調査分析には、以前に増して「目標が見えない」「自信を持ってない」生徒達の実態がよく表れていました。「自信を失くさせられてきた」生徒達に、日常の教育活動の中で、少しでも自信をつけさせ目標を見出す力を持たせることの重要性を痛感しました。

同和教育、本校での現状

しかし、生徒達をとり囲んでいるこの社会は非

常に厳しく、部落差別・在日朝鮮人差別・「障害者」差別など、さまざまな差別があります。そのため学校教育の中でも、自分を大切にすることを知るとともに、ひとりの人間の尊厳を大切にすることを学んでいく必要があります。本校では、創立以来、これらの問題に関する学習を、抽象的な道徳教育としてすまざず、個々の問題について具体的な差別の現実学び、深めていくという在り方で取り組んできましたが、その考え方は現在も引き継がれています。しかし、多くの教職員が入れ替る中で、同和问题学習の形式や回数は以前のまま引き継いでいながら、ともすれば形骸化し、生徒の力にはなっていない傾向が強くなっていました。

部落問題学習ひとつをとっても、以前は系統的であったであろう取り組みも、形式的なものとなるにつれ、「差別はいけないことだ」という到達目標を繰り返し提示するだけで、そこに至るまでの、学習し、思考し、理解するという過程と、自分が実際にどう行動していったらよいのかを共に考えるという面は不十分であると言わざるを得ませんでした。

新しい同和教育をめざして

まさにこのような時期、1993年に、3年生で差別事象が起こり、本校の3年間の同和学习が實際生活の中で、生徒達の力となり得ていないことが痛感され、初めて同和教育を再検討する必要があることが確認されました。同和教育推進委員会を中心に、新しい方向を模索するために、本校の同和教育の現状を討論、分析するという作業を続けています。

自分達の学校の中から、新しい方向を生み出していくのは、かなりの労苦を伴うものです。新しい同和教育の模索とひと口に言っても、具体的な変革は非常に小さなことからです。教職員の考え方も多様です。ただ、考え方の違いがあっても、現実に今向き合っている生徒から目をそらさず、「ひとりの人間として、生きていく力となる教育を」という考え方を同和教育の基本とすることでは、一致して取り組んでいけるのではないかと思います。

総務部・PTA

PTA活動も創立10年目を過ぎて軌道に乗って運営されるようになった。昭和56年に会長1名、副会長3名の運営形態になり現在に至っている。

役員会の下、企画・生徒指導、進路指導、保健、広報の各委員会が活動されているが、その中から主な活動状況を上げておく。

企画委員会が中心になって毎年の研修見学会、講演会の企画、準備が行われているがこの10年間の活動内容は別表のとおりである。

また、講演会においても各分野の専門家の先生

方を迎え、経験、専門性に富んだ個性豊かな内容の講演会が催されている。

広報委員会の企画・編集するPTA新聞「つばさ」も昭和51年の第1号の発刊以来、平成7年9月現在、第81号の発刊に至っている。総会・各専門委員会活動の報告、学校活動の紹介、新転任の教職員の紹介、夏の1年生臨海訓練活動や2年生の野外活動の報告、また文化祭、クラブの活躍状況等その季その時の多種多様な記事を載せている。また、表紙も漫画研究部の生徒の作品等で飾り趣

歴代PTA役員・実行委員一覧（昭和61年度～平成7年度）

役員・委員	年 度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
会 長		眞柄 和夫	佐藤 省三	七良浴増吉	出原 一郎	伊與部猛夫
副 会 長		倉津 国雄 佐藤 省三 貴田 将子	七良浴増吉 張 鴻志 真鍋美津子	出原 一郎 辻野 国輝 水本美和子	辻野 国輝 伊與部猛夫 野口 信子	射手矢廣海 古谷 貞男 河野 明子
書 記		張 鴻志 赤木 龍吉	伊與部紗智子 赤木 龍吉	伊與部紗智子 赤木 龍吉	松田トモ子 梅川 邦夫	目徳百合子 梅川 邦夫
会 計		堺谷 秀子 山中 正雄	堺谷 秀子 山中 正雄	縄 桂子 山中 正雄	縄 桂子 山中 正雄	松田トモ子 山中 正雄
会 計 監 査		真鍋美津子 水本美和子	水本美和子 縄 晴雄	松田 正巳 仲田千鶴子	森谷 昭浩 古谷 貞男	野口 十三 佐納 治
1 学 年 委 員 長		大塚 英夫	出原 一郎	畑中 昭	射手矢廣海	竹中 正次
2 学 年 委 員 長		園田 昌子	森本 譲	河野 稔	畑中千恵子	吉田美智子
3 学 年 委 員 長		吉河亜輝子	園田 昌子	森本 譲	河野 稔	畑中千恵子
企 画 委 員 長		七良浴増吉	平松 茂	木田 敬子	内山 重晴	南 洋美
企 画 副 委 員 長		根来 千歳	川畑 妙子	野口 信子	南 洋美	松浪 長孝
生 活 指 導 委 員 長		狭間 幸子	橋爪 正巳	松田トモ子	稲葉 博一	森下 節子
生 活 指 導 副 委 員 長		栩原 廣兆	小畑 昌子	花田 昭美	氏原多津子	阪上 末子
進 路 指 導 委 員 長		在木 清子	辻野 国輝	船津 節子	高井 馨	森山 圭子
進 路 指 導 副 委 員 長		松浪 栄子	喜山 勝美	氏原多津子	川崎 美幸	岩城あい子
保 健 委 員 長		菱田ます子	田村 敬子	東村栄津子	目徳百合子	戸田萬喜子
保 健 副 委 員 長		吉川 博子	松島喜久子	山下 幸雄	森川 利夫	森永 昇子
広 報 委 員 長		西尾 豊子	戸島 記江	平野富美子	茶谷さち江	茶谷さち江
広 報 副 委 員 長		井手由利子	平野富美子	茶谷さち江	吉田美智子	藤中 玲子

きある新聞に仕上がっている。20年の歳月をへてみるとまさに歴史を感じさせられる。今後もさらに飛翔していくことを願ってやまない。

また、文化祭、クラブ交流会等の学校行事にも積極的に関わり好評をえている。文化祭へはカレー店、喫茶店等の模擬店、バザー等の出店をPTA独自に出店し、収益金は学校へ寄付している。2月に行われているクラブ交流会においても、ぜんざい等をふるまっている。また、今年起こった阪神大震災への援助活動として卒業式、入学式時に募金活動を行い被災地へ送付した。

ふり返ってみると一つひとつの行事が本当に思い出深い、言いかえると歴史となって今日に至っ

ている。今後も、学校・地域に密着し、地に根ざした活動、なにより生徒達にとってより良い環境づくりを目ざして活動していきたいものである。



役員・委員	年 度	平成 3 年度	平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度
会 長		射手矢 廣海	芝野 正和	阿形 時宏	中西 正明	竹内 裕
副 会 長		古谷 貞男 竹中 正次 佐納 治	佐納 治 阿形 時宏 阪上 末子	十朗 八恵 中西 正明 横河 僖治	竹内 裕 今井都美子 公文米太郎	大岩 宏 佐田 照美 秋庭 淑子
書 記		藤中 玲子 梅川 邦夫	藤中 玲子 大家 孝雄	河野 節子 露口 玉緒	秋庭 淑子 中岡 義博	井上 善子 中岡 義博
会 計		松田トモ子 山中 正雄	十朗 八恵 村田 真弓	今井都美子 村田 真弓	佐田 照美 村田 真弓	神野 真人 古館 一彦
会 計 監 査		阿形 時宏 十朗 正	横河 僖治 中西 正明	根無 正裕 竹内 裕	神野 真人 若野 元幸	武輪 利夫 森下伊三男
1 学年 委員長		芝野 正和	今井都美子	井上 善子	伊藤 英子	福森みえ子
2 学年 委員長		阪上 末子	河野 節子	富岡 弘	井上 善子	伊藤 英子
3 学年 委員長		吉田美智子	戸田萬喜子	谷口 福子	貴志 栖子	小翠 光子
企 画 委 員 長		辻野 良子	石橋 征夫	日吉 裕美	小翠 光子	小林 紀子
企 画 副 委 員 長		松浪 長孝	室谷 侑子	貴志 栖子	小林 紀子	眞門きし江
生活指導委員長		中富 靖子	中川ヒロ子	中谷 淑子	唐門 春美	片山 義美
生活指導副委員長		土井 裕子	中谷 淑子	佐田 照美	鈴木富美子	中森 幸子
進路指導委員長		形部 幸代	梨木佐和子	高橋 久夫	角下 勝子	久保田倫代
進路指導副委員長		戸田萬喜子	福家 孝子	秋庭 淑子	井田美佐子	湊谷 實
保 健 委 員 長		平野 和枝	吉嶋ひとみ	岡村三枝子	福森みえ子	玉橋 由子
保 健 副 委 員 長		尾崎 淑美	福森みえ子	福森みえ子	山口 令子	角辻チエ子
広 報 委 員 長		堀内 勝弘	井ノ上フヂ子	柿花 澄子	宇賀 秀子	宇賀 秀子
広 報 副 委 員 長		三浦 通子	松浪 長孝	山田トヨ子	上林 昭美	上林 昭美

P T Aの歩み

年 度	P T A研修見学会	P T A 講 演 会
昭和61年度	10/24 京都 ・宝鏡寺 ・西陣会館	6/27 「本校の進路指導の現状と問題」 本校教諭 小西紀満先生 11/10 「高校生の性の問題と親の役割について」 尾崎病院産婦人科医長 辻 清先生
昭和62年度	10/23 和歌山 ・花王工場 ・道成寺	6/26 「学習について」 本校教諭 鈴木守郎 貝谷安宏 山口 弘 11/20 「非行とその背後にあるもの」 和泉少年院院長 青島 實先生
昭和63年度	10/21 奈良 ・赤膚山元窯 ・志賀直哉旧居 ・新薬師寺	6/17 「障害を考える ー光あるうちに光の中を歩めー」 大阪市立盲学校教諭 藤野高明先生 11/11 「高校生の非行の変遷 ー非行の形態の変遷・性非行にふれてー」 岸和田少年補導センター 川邊智子先生
平成元年度	和歌山 ・闘雞神社 ・南方熊楠記念館	6/9 「国際化・国際交流と 異文化について考える」 阪南町東鳥取公民館 社会教育主事 中橋政美先生 11/10 「青年期性を考える ーすこやかな成長を願ってー」 日本性教育学会評議員 藤本 巖先生



平成6年度 講演会



平成5年度 P T A総会

年 度	P T A 研 修 見 学 会	P T A 講 演 会
平成 2 年度	10/13 堺 ・大阪ガス泉北製造所 ・南宗寺 ・大安寺 ・堺市博物館	6/8 「これからの女性」 岸和田市立女性センター参与 大阪府立中央労働事務所顧問 荒木タミ子先生
平成 3 年度	河内長野 ・観心寺 ・千早赤坂 ・蝶矢の梅酒工場	6/14 「高校生の現状と家庭・学校の課題」 本校教諭 由井 潔
平成 4 年度	奈良 ・シャープ技術ホール ・飛鳥路	11/6 「健康と体力について ー学校生活における部活動の役割ー」 大阪工業大学教授 上野康夫先生
平成 5 年度	7/7 神戸 ・フルーツ フラワーパーク ・白鶴酒造資料館	11/12 「親と子の絆」 岸和田産業高校教諭 飯塚十朗先生
平成 6 年度	7/6 神戸 ・農業公園 ・布引ハーブ園	11/11 「豊かさのなかで」 大阪府青少年育成アドバイザー 青木信夫先生
平成 7 年度	7/7 京都 ・サントリービール工場 ・嵐山 ・金閣寺	

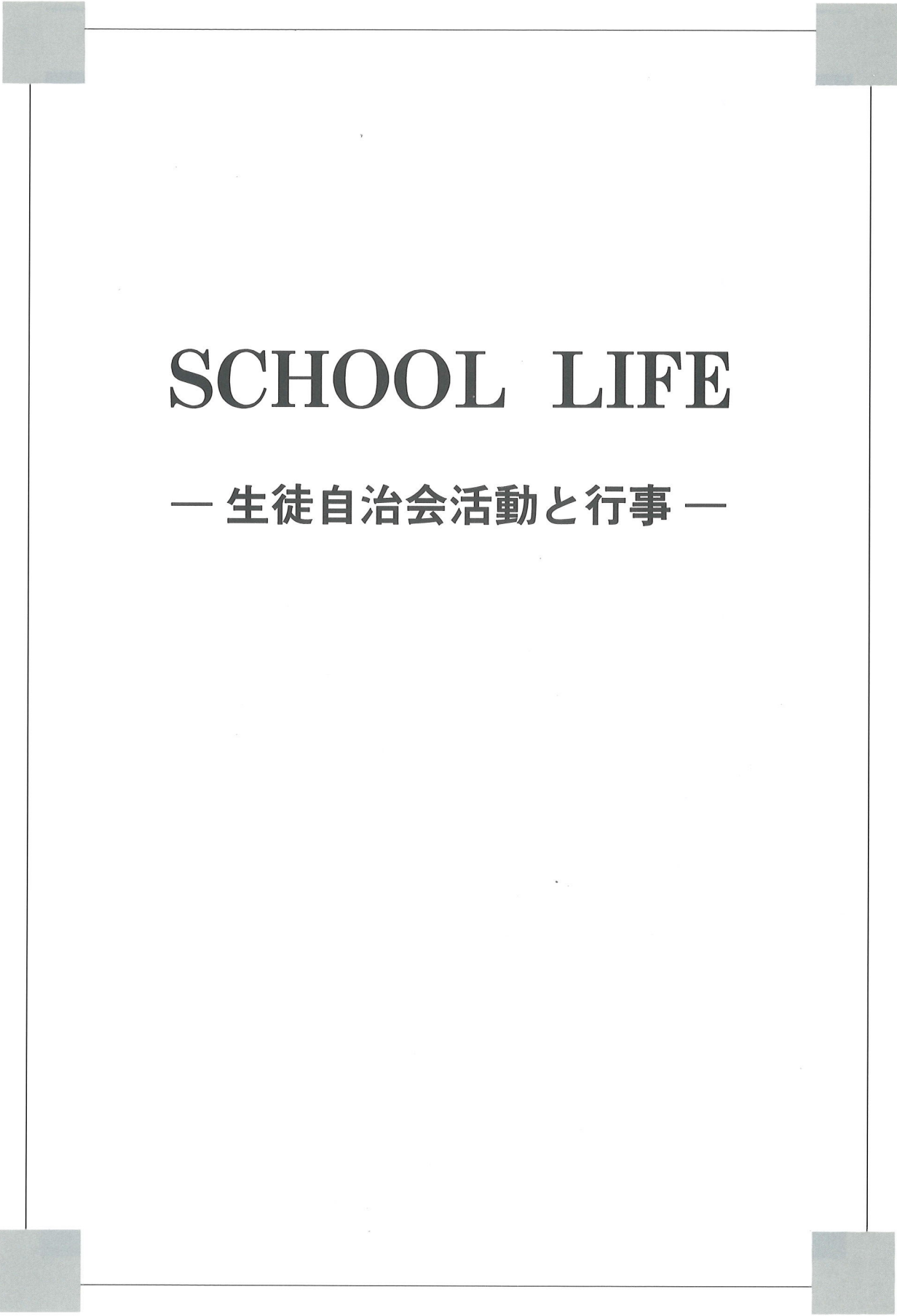


平成 2 年度 研修見学会



昭和61年度 研修見学会





SCHOOL LIFE

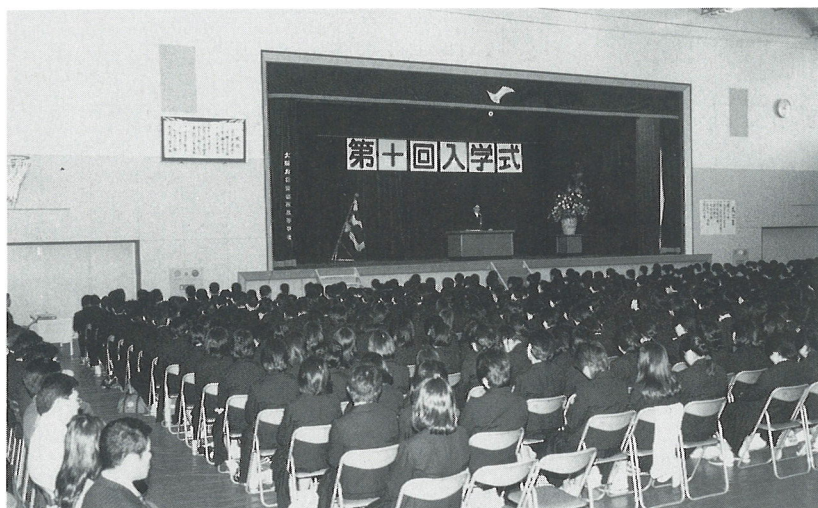
— 生徒自治会活動と行事 —

新入生歓迎会

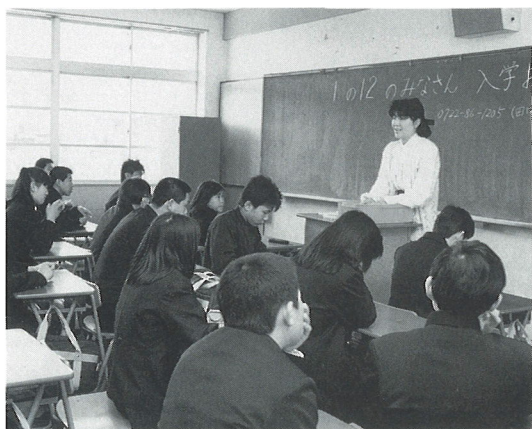
午前中、いろんなオリエンテーションをこなした新入生が、午後はリラックスして体育館で先輩の学校紹介などに耳を傾けます。ビデオプロジェクターで大きく映し出される自分達の合格発表のシーンや先輩達の学校祭や臨海、修学旅行のビデオに見入ったあとは、クラブ紹介で先輩部員達の実演をまじえた紹介にもり上がります。

生徒自治会選挙

自治会執行部は前期・後期と年2回の選挙により選ばれます。特に前期執行部は体育祭・文化祭という二大行事を成功させるため、大きなエネルギーをそそぎます。89年度の選挙はそれまでの執行部にあきたらない生徒達が、対立候補として立候補し、当選後は後夜祭や、屋台（文化祭の出し物のひとつ）の実現にむけて取り組みました。当然毎年行われている執行部夏期合宿も、熱の入ったものとなり、3日間の討論も生徒達が中心となり運営されました。



School Life
Apr



5 月 校外学習 クラスマッチ

校 外 学 習

春に1回、以前は1年生はクラス毎にハイキングやバーベキュー、2年生はオリエンテーリング、3年生はバスを使って京都・神戸・奈良方面へ出かけていましたが95年度より2年生もバス利用の遠足になっています。また1年生は学年がまとまって山中溪～雲山峰～紀伊の山歩きを行う年も多くなっています。

ク ラ ス マ ッ チ

ゴールデンウィーク中に3学年いっせいに行われていた球技大会が、89年度より学年別になりました。種目もバレーボール、バスケットボール、ハンドボールに限らず、ソフトボール、サッカーも行われ、そして10周年の時記念大会が行われた綱引きも人気種目の一つです。

School Life

May

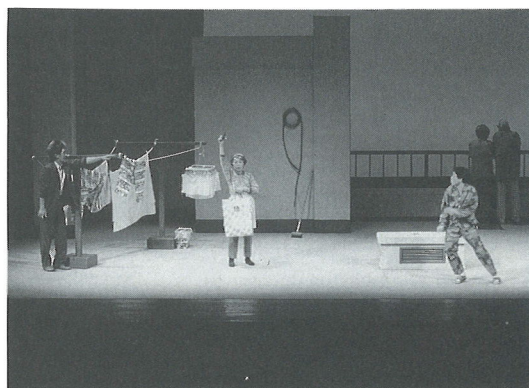


芸術鑑賞

87年度以降、演劇鑑賞は体育館でなく、サラダホールなどの劇場をかりて行っています。91年度には喜屋武マリーwithメデューサのロックコンサートもやりました。最近は主人公が生徒と同じ高校生であるものを見っていますが、その方が生徒も舞台と一つになりやすいようです。特に92年度

の「翼をください」では舞台での高校生達の告白に、客席で一緒に涙したり、勇気をふるいたたせたり、エンディングには舞台にかけ上がり劇団の人達と肩を組み「翼をください」を一緒に歌う生徒も見られました。

年 度	昭和61(1986)年	昭和62(1987)年	昭和63(1988)年	平成元(1989)年	平成2(1990)年
演 目	少年とらくだ	最後に見た街	もう一つの教室	真夏の夜の夢	シシとササの伝説
出演者	青年劇場	劇団コーロ	関西芸術座	青年劇場	青年劇場
会 場	本校体育館	和歌山県民H	泉佐野市民H	泉佐野市民H	阪南市サラダH
年 度	平成3(1991)年	平成4(1992)年	平成5(1993)年	平成6(1994)年	平成7(1995)年
演 目	喜屋武マリーコンサート	翼をください	すみれさんがいく	エディ	河島英五コンサート
出演者	喜屋武マリー	青年劇場	青年劇場	劇団 i n g	河島英五
会 場	和歌山県民H	泉佐野市民H	サラダホール	サラダホール	貝塚コスモシアター



国際交流



90、92年度に国際交流の一環として地元公民館の招いた留学生達と交流会を開きました。特に90年度は花博に参加したニュージーランドのマオリの高校生達と交流し、踊りを披露していただいたり、一緒に折り紙を楽しんだりしました。

School Life
Jun ~ Sep

10月 体育祭

90年度まで続いた団体対抗形式は、今はクラス対抗形式に変わっています。そのため応援合戦も、規模の小さいものになってはいますが、参加したクラスはとてもよく頑張っています。

また91年度より入場行進には生徒の選んだテーマ曲が流れ、自分達の作ったクラス旗を持ち、堂々と行進しています。そして、応援合戦が希望クラスのみとなったのもこの年からです。

昭和61(1986)年

学年ぶち抜き 6 団対抗

昭和62(1987)年

学年ぶち抜き 6 団対抗

昭和63(1988)年

学年ぶち抜き 6 団対抗

平成元(1989)年

学年ぶち抜き 6 団対抗

平成 2 (1990) 年

減学級により、4 団対抗に。テーマ「闘龍」

平成 3 (1991) 年

学年別クラス対抗に。

テーマ「群騾」(Fighting Dragon)

行進曲「浪漫飛行」

平成 4 (1992) 年

行進曲「愛は勝つ」

平成 5 (1993) 年

行進曲「どんなくきも」

平成 6 (1994) 年

行進曲「サバイバルダンス」

School Life
Oct



88年度以来、文化祭のマスコットを作ることが、執行部の伝統(?)になっていましたが、91年度は全生徒1200人に協力を求めました。生徒一人一人が思い思いに色をぬり切り抜いた1200人のウォーリー（ポーズも30数種類あり）をクラス代表を通じて回収した執行部は、これをベニヤ板12枚に貼りつけました。この中から一つしかない本物のウォーリーをさがしてもらうというものでした。また校内10箇所(階段の手すりの裏であったり、クラスの出し物である喫茶店の看板の裏など)にウォーリーを貼り、見つけた者にはウォーリーグッズをプレゼントするなど、創意工夫して取り組みました。

89年度には、後夜祭が実現しましたが、荒天により中止になり、90年度には単品食品販売(屋台)が実現しました。そして、92年度にポスターコン

テストが始まりました。現在、クラスの出し物は夜店(おめん屋さん、ヨーヨーつりなど)が増える傾向にありますが、そんな中にあり、上級生はいつも下級生達をあっと言わせるものを作り出します。中庭の池に作られた水車や、時計台はまるで本物のようでした。また、全長13mのくじらやベニヤ板に12枚の巨大壁画もいずれも3年生の作品でした。そして、一時減少傾向にあった舞台発表も、3年生を中心に演劇や合唱が復活しつつあります。

ただ94年度は本校生2名を含む外来者の暴力事件がおこり、閉会式が流れてしまったことは非常に残念です。その反省をもとに、今後の文化祭の運営の再検討をしています。

年 度	テ ー マ	マスコット
昭和61(1986)年	「放射能をやっつけろ」ー大地の鼓動より自由への戦いー	
昭和62(1987)年	「Free Way」	
昭和63(1988)年	「Regeneration 回帰線」	ゴジラ
平成元(1989)年	「Boys, Be Delicious」(少年よ、大したもんだ)	マスカット
平成2(1990)年	「Stay Dream」(夢を保ち続けろ)	
平成3(1991)年	「大冒険ー探してるのに」	ウォーリー
平成4(1992)年	「夢飛行 自分の夢の世界を旅してみよう」	飛行船
平成5(1993)年	「Big Wave」	くじら
平成6(1994)年	「乾杯ぎょうざ太郎」	



School Life
Nov

12月 リーダー合宿 1月 野外活動 2月 クラブ交流会 卒業式 3月 終業式 入試合格発表

リーダー合宿

新1年生のHR委員達が生徒自治会執行部の先輩と一緒に宿泊し、レクや討論の練習をする場です。この合宿で夜通し先輩達と話し合い「泉鳥をこんな学校にしたい」と夢を持って次の自治会選挙に立候補する生徒達も多数いました。

こうした執行部合宿は91年度、リーダー合宿は90年度を最後に行われていません。しかし今春、阪神大震災に対し、カンパ活動に取り組んだ生徒達が中心となり、この夏の執行部合宿がすでに企画されています。そして今まで長い間、先輩達も取り組めなかった校則問題にもすすんで取り組んでいこうとしています。

クラブ交流会

以前、2学期終業式の日、モチを食べながら一年の労をねぎらい、来年の活躍をちかっていたクラブ納会が、91年度より3学期の学年末テスト前に行われていたクラブ駅伝のあと、クラブ交流会という名前で行われています。自分達の走っている駅伝のビデオを見ながら、PTAの方々の作ってくださったぜんざいやブタ汁をいただきます。もちろん駅伝不参加のクラブも参加できます。

School Life
Dec ~ Mar



臨海訓練

臨海訓練は、本校創立3年目の昭和53年から始まり、現在にいたる本校で最も伝統的な行事である。第1回から現在まで一貫して鳥取県陸上郡東浜で行っている。透き通るような海の美しさ、遠泳のしんどさとやり遂げた後の達成感、感動的な夕日を見ながら食べるバーベキューの美味しさ、梅雨明け寸前の海の冷たさなど、泉鳥取卒業生が共有する思い出がいっぱいにつまった行事である。

一時南紀方面へ変更する事も検討したが、海の

美しさが南紀とは比べものにならず、また費用の面でもさほど変化がない、と判断して現在も東浜で行っている。

この行事の目的は、広い地域から入学してきた生徒を「泉鳥取高校生」にすること。それまで話の出来なかった生徒同士が同じ民宿で泊まることで友達の輪を広げ、共同体としてのクラスを形作ることが最も大きな目的である。

次に高校生としてふさわしい習慣を身につけ、

思い出の フォトグラフ



高校生としての自覚をもたせること。それまでの「中学生」とはひと味違う高校の指導を徹底させるために厳しいルールを設けている。

食生活が乱れた生徒が増えている昨今では、食生活の指導も重要なアイテムとなっている。お菓子は禁止、ジュースも禁止、甘いものを否定した生活がある意味で強制する。そうすると食事の旨さが認識できるようになってくる。

近年、海難事故の危険性が指摘され、（本校教員OBの川崎泰英氏の原稿参照）また教職員の平均年齢も上がるに従って「臨海廃止」の議論が起こっている。大阪府の状況を見ると、学年全員参加の臨海行事は年々減少し、気がつくと第9学区で学年全員参加の臨海行事を行っているのは本校だけとなった。

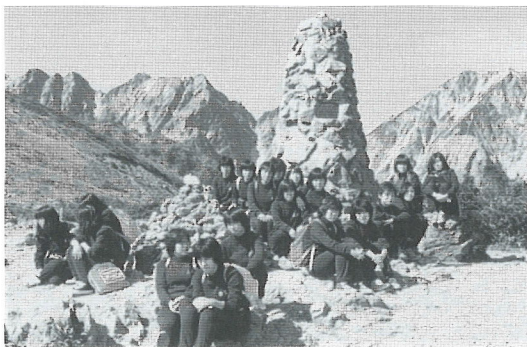
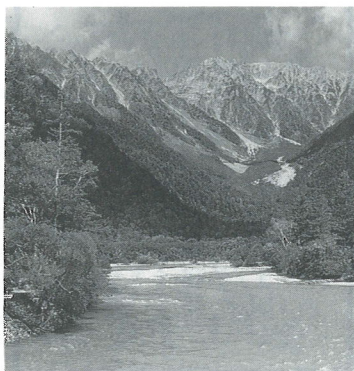


野外活動

本校の修学旅行は生徒一人一人が自主的で創造的な活動ができるようなものに、という考えから、野外活動と呼んでいる。

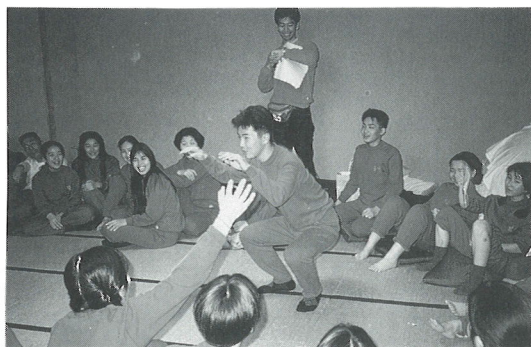
期生(年度)	内 容	場 所	期生(年度)	内 容	場 所
1 (1977)	登 山	大山・鳥取砂丘	6 (1982)	登 山	立山・白馬
2 (1978)	登 山	御岳・上高地	7 (1983)	登 山	白馬方面
3 (1979)	登 山	白馬方面	8 (1984)	スキー	志賀高原・高天原
4 (1980)	スキー	志賀高原・蓮池	9 (1985)	登 山	白馬方面
5 (1981)	登 山	白馬方面	10 (1986)	スキー	志賀高原・発哺ブナ平

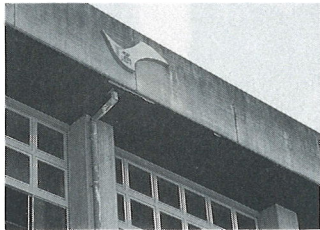
思い出の フォトグラフ

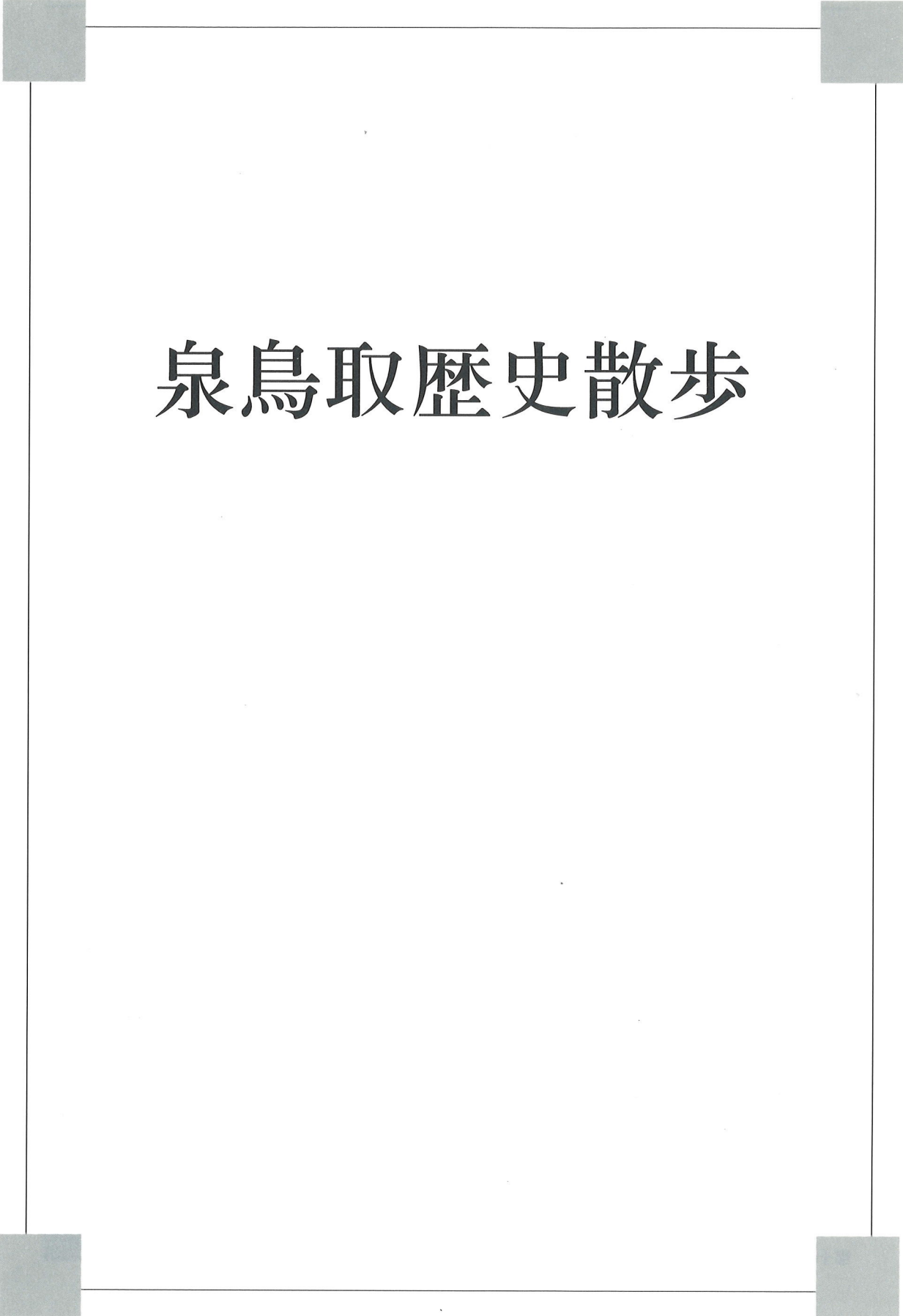


近年は、新しいスポーツに出会い、その魅力と達成感を体得する、学年としての集団作りをすすめるという目的から、スキー行事を実施している。

期生(年度)	内 容	場 所	期生(年度)	内 容	場 所
11(1987)	スキー	志賀高原・発哺ブナ平	15(1991)	スキー	志賀高原・熊の湯
12(1988)	スキー	志賀高原・発哺ブナ平	16(1992)	スキー	志賀高原・熊の湯
13(1989)	スキー	志賀高原・発哺ブナ平	17(1993)	スキー	志賀高原・熊の湯
14(1990)	スキー	志賀高原・熊の湯	18(1994)	スキー	志賀高原・蓮池&丸池







泉鳥取歴史散歩

泉鳥取高校のほとり

蓮池



波太神社の西に位置する溜め池で、17世紀に水無し谷をせき止めて築造された。この池の底から旧石器時代に使われたと推定される有舌尖頭器が発見されている。大きさは長さ45ミリ、幅27ミリ、厚み6ミリのサヌカイト製である。この旧石器から縄文・弥生・古墳・中世の幅広い時代の遺物が多く出土している。この遺跡を蓮池遺跡と呼んでいる。恐らくは、蓮池より高台より流されたものが多いと思われるので、蓮池南の高台を発掘すれば、縄文時代から中世にかけての複合遺跡が発見される可能性も高い。考古学者には垂涎ものの遺跡である。現在、農業用ため池として使われるかわら、鮎の養殖池としても使用され、冬には池ざらえが見られる。

波太神社



『延喜式』神名帳上巻（第9巻）に和泉国日根郡十座の一つとして名前が記載されている。『延

喜式』は延長5年（西暦927年）に撰上されているので、少なくとも10世紀には国から祭られた神社であることが分かる。祭神は角凝命・品陀分命の二柱である。もともとはもう少し南の山寄りにあったそうだが、現在の場所に移ったのは、元亀・天正年間である。天正5年信長の雑賀攻めの時には本陣となった。現在の社殿は天正13年（1585）の秀吉の紀州征伐の折り消失、その後慶長5年（1600）豊臣秀頼の命により片桐且元が修復したが、新たに本殿が寛永15年に再建された。本殿が寛永の様式を色濃く遺した逸品であるのは、このせいである。

遺構としては、天正5年に豊臣秀頼によって寄進された灯籠（市指定文化財）および寛永様式の本殿（国指定重要文化財 ※この本殿は『阪南町史』によると「春日造」となっているが、実際には「三間社流造」である）がある。なお、10月に行われる秋祭りは、樫井川以南に集中する「やぐら」と言われる山車が出て、石段を駆け上がる。その勇壮さは岸和田・泉佐野地域のだんじりとは違った意味で勇壮である。

玉田山



学校正門から小高い丘が見える。これが玉田山である。この丘には古墳時代終末期の両袖式横穴石室を持つ玉田山2号墳と、前期もしくは中期に属する竪穴式石室を持つ玉田山1号墳が存在し、阪南町教育委員会(当時)が発掘調査を行っている。古墳時代、この地域を支配していた豪族は明らかではないが、墳丘が小規模であり、さほど強大な豪族ではなかったようだ。おそらく古代中世と当地を支配した鳥取氏の先祖の墓ではなかろうか。

また、玉田山は上代玉田山は中世武士の館跡も発見されている。ここは、日本書紀にある「兎砥川上宮」にも比定されている。

首斬り地蔵

今から約400年前、豊臣秀吉の紀州平定の折り、反抗する農民や国人の首を斬り、当地に埋めたという。その人々の菩提を弔うために祭られたらしい。現在でも地元の人々の信仰篤く、多くの幟が立っている。

信長街道

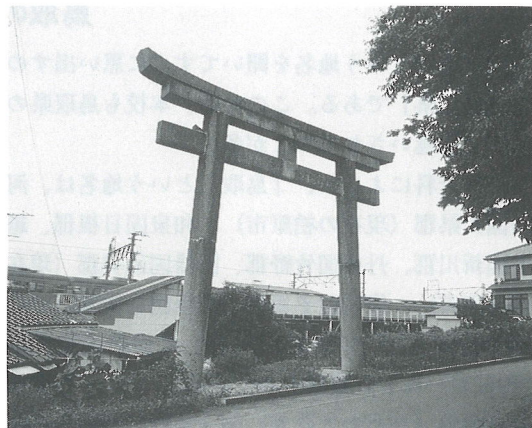
阪南市立鳥取東中学校から泉鳥取高校・波太神社・蓮池を結んで国道26号線鳥取交差点に至る道を俗に「信長街道」と称している。

天正5年(1577)に織田信長が紀州雑賀衆を攻略した時、波太神社に本陣を置いた。そのため「信長の通った街道」という意味で誰とはなしに言い出したのであろう。

信長はこの紀州雑賀攻めの時、山手側軍勢(雄ノ山峠越え:佐久間信盛・羽柴秀吉・荒木村重・別所長治・堀秀政)と浜手側軍勢(孝子峠越え:滝川一益・明智光秀・丹羽長秀・細川藤孝・筒井順慶・織田信雄)の中央に位置する波太神社に在陣したのである。

だが、本当に信長軍が使用した道は、現在の「信長街道」よりも北を走る道であるということが『大阪府史』編纂室によって確認されている。

謎の鳥居



和泉鳥取駅の裏にぽつんと大きな石造り鳥居が建っている。この鳥居は何物か? 泉鳥取高校関係者なら一度は不思議に思ったことだろう。

この鳥居は山中溪から雄ノ山峠を越える紀州街道に沿って建っている。種を明かせば、波太神社の遙拝鳥居である。

その昔、平安時代から山中溪から六十谷へ抜ける道は、熊野詣でのための道であった。この熊野詣での旅人が旅の無事を祈るために波太神社に詣でた。ところが波太神社は熊野古道から遠いため、ここに遙拝鳥居が作られたようだ。

江戸時代、紀州の殿様(「てんでてまり」のモデルとなった紀州徳川家)はこの紀州街道を使って参勤交代を行っていた。参勤交代の時、由緒正しき波太神社に詣でたいが、相当な寄り道となるため、峠道の入り口で波太神社に参詣したことが「紀伊続風土記」にも見られる。あの8代将軍徳川吉宗(頼方)も、14代将軍徳川家茂(慶福)も紀州藩公時代にここから波太神社を遙拝したそうだ。和泉砂川駅の西側にも同様の遙拝鳥居があり、こちらは風吹峠を越える人が利用したらしい。

歴史の散歩道

鳥取の名の由来

「鳥取」という地名を聞いてすぐに思い出すのが「鳥取県」である。このため、本校も鳥取県の学校と勘違いされることが多い。

現存資料によると、「鳥取」という地名は、河内国大県郡（現在の柏原市）、和泉国日根郡、越中国新川郡、丹後国竹野郡、因幡国邑美郡（現在の鳥取市）、備前国赤坂郡、肥後国合志郡、下総国印旛郡（古代の駅名）、そして伊勢国員弁郡（神社名）などに確認されている。このうち和泉国日根郡（ひねのこほり）の「鳥取」が阪南市鳥取なのである。

この「鳥取」という地名は、いずれも上代に「鳥取部」といわれる名代（＝天皇家の一族の名前を残すために設置された私有地と私有民）が置かれたことに由来していると、『日本書紀』や『古事記』は伝えている。

第11代（と紀記は言っているが、一説には第2代）垂仁天皇の子に誉津別命（ほむつわけのみこと）という人がいた。この皇子を垂仁天皇はいたくかわいがり、左右に置いて育てた。しかし30歳を超え、ひげが長くなっても、子供のような泣き声を出すだけで言葉が出せなかった。心配した垂仁天皇は、即位後23年目の秋9月、群臣たちになぜ彼が言葉を話せないのかを問いかけた。だが答えられる者はいない。そんなこんなで1カ月たった10月8日、宮殿の前で天皇と誉津別命が立っていると、鵠（くぐい＝現在の白鳥？）が飛んできて上空を横切った。その様子を仰ぎ見ていた誉津別命は「あれはなに？」と突然言葉を発した。「あの鳥を見て皇子がしゃべった」と天皇は喜び、左右の家臣に「だれかあの鳥を捕まえよ」と命じ

た。この時、家来の天湯河板拳（あめのゆかわたな）が進み出て「私がああ鳥を捕まえてご覧にいます」と申し出た。天皇は「よし、あの鳥を捕らえたなら、褒美は篤く取らせるぞ！」そして湯河板拳は鵠を求めて諸国を訪ね歩き、出雲国（一説には但馬国）でこの鳥を捕らえた。

11月、湯河板拳は捕らえた鵠を献上した。誉津別命はこの鳥と遊ぶうち、ついに物を言うことが出来るようになった。そこで垂仁天皇は天湯河板拳に対して、篤く褒美を与え、さらに「鳥取造（ととりのみやつこ）」という姓を与えた。そしてこの嬉しい出来事を後世に伝えるために「鳥取部（ととりべ）」「鳥養部（とりかいべ）」「誉津部（ほむつべ）」を置いた…。

この説話は『古事記』・『日本書紀』に同様の記事が載っている。「鳥取部」という部曲が何のために置かれていたのか、何のための名代だったのかは未だ不明である。上記の3つの「部」を見ると、「誉津部」は名代の名前として納得いくものだが、「鳥取部」と「鳥養部」はむしろ専門的技術者集団である部曲（かきべ）と考えた方がよいかもしれない。当時は白い鳥はよい兆し、すなわち瑞兆とされていたので、白い鳥を捕らえて朝廷に献上したり宮中で食する鳥を捕らえることを仕事としていた民がいたのであろう。実際現在でも冒頭に掲げた地域には白鷺や白鳥が飛来する地域である。本校横のため池や波太神社向こうの蓮池などには今でも冬になると白鷺が餌を求めてやってくる。鳥を取る人々から「鳥取」という地名は生まれたのであろう。

資料

旧職員異動表

	年度 氏名(旧姓)		年度																			備考
			'76 S51	'77 52	'78 53	'79 54	'80 55	'81 56	'82 57	'83 58	'84 59	'85 60	'86 61	'87 62	'88 63	'89 H元	'90 2	'91 3	'92 4	'93 5	'94 6	
校	石川 正敏																				逝去	
	八木 幸治																					
	吉岡 光雄																				退職	
	岸本 忠一																				東大谷高校	
長	南 敬																				関西女子短期大学	
	森本 敏史																				泉大津高校校長	
教 頭	吉岡 光雄																				退職	
	加藤 順一																				上神谷高校校長	
	反甫 昌三																				岸和田高校校長	
	石田 清司																				砂川高校校長	
国 																						

	氏名(旧姓)	年 度																				備 考
		'76 S51	'77 52	'78 53	'79 54	'80 55	'81 56	'82 57	'83 58	'84 59	'85 60	'86 61	'87 62	'88 63	'89 H元	'90 2	'91 3	'92 4	'93 5	'94 6		
国 語	山崎 誠																				予備校職員	
	小野ゆり子																				佐野工業高校(定)	
	藤田(野間)紀子																				退職(講師)	
	藤原 文子																				退職(講師)	
社 会 数 学	市村 昌三																				佐野高校(定)	
	田村 陽一																				三重県教育委員会	
	大塚 忠																				久米田高校	
	梅川 邦夫																				泉南高校(全)	
	岸川 和夫																				東住吉工業高校(定)	
	射手矢豊和																				貝塚南高校	
	牟田口映二																				福井高校	
	山口 潤一																				上神谷高校	
	時藤 知之																				佐野工業高校(定)	
	原田 益勝																				東百舌鳥高校	
	高橋 毎彰																				佐野高校(全)	
	南 英世																				三国丘高校	
	藤基(和田)佳子																				佐野高校(全)	
	中井 哲男																				和泉養護学校	
	辻 清孝																				砂川高校	
	秋月 弘司																				島根県立益田工業高校	
	松岡 徹																				退職	
	中川 孝																				泉大津高校	
	大家 孝雄																				泉南高校(全)	
	西田 浩之																				泉南市立西信達中	
濱田 幸喜																				退職(講師)		
数 学	中村 二郎																				和泉工高(定)教頭	
	渕本 俊一																				美木多高校	
	岡本 博文																				和泉高校	
	永井 仁司																				砂川高校	
	北出 憲一																				貝塚高校(隔定)	
	炭鎌 伸司																				砂川高校	
	近澤 啓成																				和泉高校(全)	
	西本(樺木)三恵子																				高石高校	
	鈴木 守郎																				日根野高校	
	正木建志郎																				大塚高校	
	河内 龍哉																				岸和田高校	
	林 一光																				高石高校	
	一居 孝典																				退職(講師)	
	恩地 博章																				退職(講師)	
	塩谷 亘																				堺上高校	
	大江 正記																				日根野高校	
山之内 豊																				高石高校		

旧職員異動表

氏名(旧姓)		年度																			備考	
		'76 S51	77 52	78 53	79 54	80 55	81 56	82 57	83 58	84 59	85 60	86 61	87 62	88 63	89 H元	90 2	91 3	92 4	93 5	94 6		
数 学	辻 康子																				久米田高校	
	中村 直																				逝去	
	新野 正博																				退職	
	中筋(鳥居)あゆみ																				退職(講師)	
	南川 修司																				貝塚市立第一中	
	宮本 里香																				退職(講師)	
	加藤 一人																				退職(講師)	
	深渡 重秀																				退職(講師)	
理 科	友田 隆三																				泉南高校(隔定)	
	小西 紀満																				貝塚南高校	
	中筋 久彌																				貝塚高校(定)	
	黒坂 峻																				和泉工業(定)	
	三笠 照郎																				和泉高校(全)	
	小林 寛三																				金岡高校	
	丸村 真弘																				和歌山県立南紀高	
	真田 雄一																				私立就実高校	
	上林 正博																				貝塚南高校	
	高橋 雄二																				守口高校	
	村田 悟																				砂川高校	
	一居 孝典																				退職(講師)	
	萩原 直樹																				桃谷高校(通)	
	聖居 隆																				港高校	
	鈴木(武本)泉																				三重県立上野高校	
	濱本 泰治																				貝塚南高校	
	岡村多加志																				岸和田高校	
	西野(小林)真由美																				退職	
	川端 雅生																				島上高校	
	高木 まや																				退職(講師)	
	中筋 典宏																				阪南市立鳥取東中	
	松谷 伸一																				和泉市立信太中	
	小林 義隆																				退職(講師)	
	寺田 友美																				退職(講師)	
	和知 元																				退職(講師)	
英 語	辻 陽一																				帝塚山学院	
	伯耆 佳代																				和泉高校(全)	
	大庭(西浦)麻里子																				池島高校	
	七尾(松田)英子																				天王寺高校	
	細尾 俊之																				富田林高校	
	佐野(小嶋)妙子																				金剛高校	
	中村(松本)幸子																				信太高校	
	嶋田 和代																				泉南高校(全)	
浅野 拓也																				貝塚南高校		

氏名(旧姓)		年 度																			備 考	
		'76 S51	'77 52	'78 53	'79 54	'80 55	'81 56	'82 57	'83 58	'84 59	'85 60	'86 61	'87 62	'88 63	'89 H元	'90 2	'91 3	'92 4	'93 5	'94 6		
英 語	室 良枝																			退職		
	松田(伊藤)江利子																			高槻北高校		
	木本 和利																			北野高校		
	中野(小出)孝雄																			日根野高校		
	山本 朗則																			退職（講師）		
	石川 正浩																			退職（講師）		
	土井 健司																			貝塚高校		
	中井 隆																			明浄学院高校校長		
	山本 三郎																			退職		
	貝谷 安宏																			岸和田高校		
	衛藤(植村)妙																			泉大津高校		
	森 建夫																			佐野高校（全）		
	松本 純一																			退職（講師）		
	田窪 宏年																			岬町立岬中		
	露口 玉緒																			泉北高校		
	松谷世津子																			退職（講師）		
	清尾 栄司																			退職（講師）		
	保 健 体 育	妻木(樋口)明代																			退職（講師）	
中野由美子																				大阪市立平野北中		
川口 慶子																				退職（講師）		
門田 竜一																				私立明星高校		
藺 いづみ																				退職（講師）		
得津知珠子																				退職（講師）		
小林 克子																				退職（講師）		
安西 仁																				佐野養護学校		
岸本 章嗣																				西成高校		
由井 潔																				伯太高校		
川崎 泰英																				金岡高校		
藤本(北川)美可																				退職		
佐藤 幸弘																				堺東高校		
梅田 宏子																				退職		
柿花 和夫																				久米田高校		
長谷川 晃																				逝去		
梶原 敏孝																				天理大学		
平岡 信一																				日根野高校		
奥 武文																			佐野養護学校			
芸 術	須賀喜志恵																			信太高校		
	岸本(合田)書子																			退職		
	九鬼 恵章																			退職		
	吉田 幹子																			高槻養護学校		
	古石 伊澄																			退職（講師）		
	赤木 龍吉																			退職		

旧職員異動表

	氏名(旧姓)	年 度																			備 考
		'76 S51	77 52	78 53	79 54	80 55	81 56	82 57	83 58	84 59	85 60	86 61	87 62	88 63	89 H元	90 2	91 3	92 4	93 5	94 6	
芸 術	名倉 一好																				砂川高校
	芝崎 博敏																				退職（講師）
家	広田 隆子																				桃谷高校（通）
	中島加津美																				退職（講師）
庭	柿花(植原)直美																				退職（講師）
	佐々木孝子																				退職
	北浦千恵美																				退職（講師）
	植田 博子																				登美丘高校
	中川(日垣)久仁子																				三国丘高校
養 護	北橋 久子																				盲学校
	藤井(西)眞喜子																				岸和田養護学校
	山本 裕子																				退職
	春川 啓子																				岸和田市立岸城中
実 習	津田 昭一																				堺市立中百舌鳥中
	井辺(安井)清子																				池田北高校
	西辻(池辺)耕一																				退職
	北出 梨恵																				退職
事 務 長	大沢 温幸																				退職
	藤原 義次																				泉北整備事務所
	田中 春徳																				滝畑ダム管理事務所
	森貞 綏																				泉南府民センター
	易本 清昭																				和泉工業高校事務部長
	福田 貴穂																				藤井寺高校事務長
	井上 一雄																				退職
	池辺 清次																				大阪府立大学
主 査	播本 次男																				退職
	山中 正雄																				退職
	村田 真弓																				泉北高校
主 事	上田 利文																				和泉高校（定）
	前田(溝口)清美																				退職
	福本 成道																				教育委員会
	林 重樹																				泉北教育事務所
	藤田 雅子																				今宮高校（全）
	花野 迎彦																				教育委員会
	犬伏 政二																				大阪府福祉部
	濱永世津子																				鳳高校
技 術 職 員	藤木 誠夫																				福泉高校
	太田 操男																				美木多高校
	浦尾 宗雄																				堺上高校
	井上 雅道																				大阪府用度課

教 科		氏 名		教 科		氏 名		教 科		氏 名						
校 教 国	長 頭 語	有	吉	隆	生	数	学	上	田	敬	介	英	語	前	川	恭
		龜	井	慎	作	〃	〃	木	谷	紀	彦	〃	〃	前	田	敦
		岩	崎	江	子	〃	〃	福	田	弘	吉	〃	〃	佐々木	喜代美	
		加	藤	み	ち	〃	〃	根	来	則	義	〃	〃	Craig	Fay	純
		中	村	達	朗	理	科	平	川	公	勉	〃	〃	畑	田	裕
		村	田	芳	一	〃	〃	坂	口	純	男	〃	〃	松	本	正
		安	藤	由	美	〃	〃	谷	口	正	造	〃	〃	村	田	智
		稻	田	宗	彦	〃	〃	宇	野	直	武	美	術	小	谷	勢
		久	保	則	勲	〃	〃	森	田	努	幸	〃	〃	田	井	都
		中	村	朗	雄	〃	〃	秋	山	一	治	〃	〃	毛	藤	佳
		桑	鶴	里	子	〃	〃	竹	田	美	幸	〃	〃	越	田	玲
		下	玉	利	美	〃	〃	笹	井	英	治	〃	〃	根	来	由
		淀	川	恵	子	〃	〃	小	谷	嘉	治	〃	〃	中	野	克
		青	山	真	希	〃	〃	奥	野	繁	彦	〃	〃	川	口	ハツ
		山	本	紀	公	保	健	藤	田	昌	也	〃	〃	宮	田	律
増	下	博	之	〃	〃	川	井	貞	隆	保健室(養護)	保健室(養護)	梅	本	春		
木	木	靖	朗	〃	〃	宮	崎	伸	明	実習助手(図)	実習助手(図)	花	岡	香		
妻	上	雄	一	〃	〃	加	藤	聡	一郎	〃(家)	〃(家)	池	田	悦		
柿	内	徹	朗	〃	〃	金	子	宇	一郎	〃(理)	〃(理)	清	水	砂		
橘	功	博	章	〃	〃	高	橋	貴	美	〃(〃)	〃(〃)	佐々木	館	一		
福	博	悦	昭	〃	〃	小	嶋	淳	史	事務	事務	古	森	田		
前	悦	弘	司	〃	〃	梅	田	宏	子	〃	〃	木	戸	藤		
瀬	戸	谷	哉	英	語	龜	伊	信	美	〃	〃	神	松	下		
竹	谷	西	彦	〃	〃	寺	田	順	子	技	術	植	田	好		
中	小	林	澄	〃	〃	後	藤	み	ゆ	〃	〃	清	水	ス		
小	中	岡	一	〃	〃	石	田	孝	文	〃	〃	須	崎	直		
川	村	義	博	〃	〃	土	井	匡	子	教	務	補	助	子	子	

編集後記

早いもので、泉鳥取高校が創立されてから、はや20年の歳月が流れました。創立当初は、生徒が買い食いができる店もなく、教職員が一息つける場所もなかった田舎が、今ではコンビニ2軒が売上を争い、本屋やパン屋、寿司屋が軒を連ねるほどになってきました。

20年と言えば、人間で言うところの成人を迎える年月です。もうすぐ卒業生の子どもが入学してくる時期でもあります。創立期の情熱的な部分は徐々に冷め、落ち着いた学校へと変貌しつつあります。その中で創立当初の情熱をどう残し、日頃の指導にどう活かして行くのか？現在の我々が抱えたいちばん重要な問題です。

ここに20周年記念誌「花水木」をお届けします。編集委員は3名とも10周年記念式典を知らなかったもので、10周年記念誌や他校の20周年記念誌を参考にしながら編集作業を進めました。今回の編集に当たっては、10周年記念誌「ハナミズキ」との重複を避けるため、昭和61年度以降を中心に編集を行いました。しかし編集作業など初めての我々です。暗中模索の連続で、これで本当に記念誌が完成するのかなあ、と不安の毎日でした。いい加減な3名に対してある時はアドバイスをしてもらい、ある時は尻を叩き、最後の紙面のデザインをしていただいた出版「樹々」の井上さんと大東さんには本当に感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

また、ご多忙中にもかかわらず快く原稿を引き受けて下さった関係者の皆さん、写真原稿の面で全面的に協力を賜りました小西紀満先生（元教員、現在貝塚南高校教諭）、森本敏史先生（前校長、現在泉大津高校校長）および株式会社ムラタフォトスタジオのみなさん、本当にありがとうございました。つたない我々ではありますが一応の体裁が保てたのは皆様方のご協力の賜物です。この場を借りてお礼申し上げます。

この本が泉鳥取の新しい10年のための道標となれば幸いです。

創立20周年記念事業実行委員会

20周年記念誌編集小委員会

委員長 妻木 靖朗

木下 博之

久保 勲

創立20周年記念誌 花水木

平成7年10月21日

発行 大阪府立泉鳥取高等学校

〒599-02 大阪府阪南市自然田854-1

TEL 0724 (71) 2921

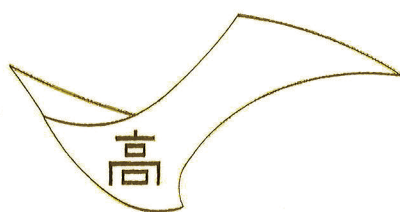
編集 20周年記念誌編集小委員会

制作 出版樹々／記念誌制作室

〒569 大阪府高槻市柱本3-12-3

TEL 0726 (77) 5171

印刷 株式会社 日東印刷



1976—1995